

シンガポール劇場調査

——エスプラネードにおける上演作品『シンガポールの歴史』を中心に——

玉崎紀子

1. 趣旨

2007年文化科学研究所演劇グループの予算化された海外劇場調査により、2008年2月末にシンガポールの劇場調査を行った。

今回の調査は、これまで進めてきている研究所演劇グループの安藤隆之氏の研究調査「東南アジアにおける劇場文化研究」に、演劇グループの共同研究者として新たに参加するものである。とりわけ、イギリス植民地としての歴史をもつシンガポールのオペラ、ミュージカルにおいてイギリスの演劇的伝統と現地の独自の演劇とがどのように関わって今日に至っているかを明らかにする調査の一部として進める。

そこで今回は、シンガポールで人気ある演劇であり、好評により2008年再々演された『ディム・サム・ドリーズのシンガポールの歴史』(*Dim Sum Dollies in the History of Singapore*)を調査研究の中心としてエスプラネード・シアターで観劇した。この作品はシンガポールの国民にはシンガポール人としてのアイデンティティを鼓舞する意味で愛国的な舞台作品であるし、観光客に対してはシンガポール案内として機能している音楽劇である。音楽とダンスを入れ英語で上演され、いわばミュージカルとして欧米的演劇伝統にあると言えるし、現在世界的人気の上演形態であるアメリカン・ミュージカルの受容としての作品と言えよう。また、広告ちらしの紹介文によると、シンガポール独特の中国系、マレー系、インド系の人種の混合としての歴史的文化的物語を語る演劇として、民族的特徴をもつ音楽やダンスも含まれている。その点でも国民的アイデンティティを示すと言えるので、二重の意味で興味深い研究対象と考える。

この作品はシンガポールで最高の総合芸術文化センター、エスプラネードのオペラ劇場エスプラネード・シアターで上演された。観劇の翌日にはエスプラネード文化センター全体の劇場見学と調査を行った。2003年にエスプラネードとイギリス植民地時代の劇場ヴィクトリア・シアターについては安藤氏が劇場調査を開始しているので、その続編でもある。中国系シンガポール人にとってのオペラ(京劇)が2月中旬(中国系正月)に上演され、それに呼応して2月初旬にイタリア・オペラ『椿姫』が2日間上演されたが、その時期に入試の関係で出張が不可能であったので、今回はシンガポールにおける音楽と舞踊つきの上演作品としての『シンガポールの歴史』を中心にした。

2. 予定日程

2008年2月25日（月）－3月1日（土）

2月25日（月）名古屋発（セントレア）－シンガポール着

2月26日（火）『シンガポールの歴史』観劇

2月27日（水）エスプラネード（シンガポール芸術文化センター）見学及び調査

2月28日（木）博物館見学 小劇場見学 夜観劇予定

2月29日（金）美術館見学

3月1日（土）シンガポール早朝発－名古屋着（セントレア）

3. 日程順による調査概要

入試採点と入試委員会の関係で2月末まで出発できず、かねてから年1回の華やかな祭典が集中するシンガポールの中国系正月に行くようにと言われてはいたものの、その正月が過ぎたばかりの時期に1週間行くことになった。

この時期は前以って入手した劇場情報により、京劇およびイタリア・オペラ公演がすでに上演された後の空隙期と判明していたので、出発前に他の公演を探した。資料により、『シンガポールの歴史』がオリジナルなミュージカル作品と思われたので、このチケットをインターネットで予約購入し、他は現地できると考えた。

2月25日（月曜日）。1週間の予定で出張したものの、出発予定のシンガポール航空の飛行機（毎朝9：40 一便飛行）が、セントレア中部国際空港でエンジントラブルのため飛行できず、出国手続きも終わり搭乗口で待機中に、翌朝便に振替と変更がアナウンスされた。セントレアまで自宅から長時間を要するので、前以って空港ホテルに24日晚から宿泊して朝の便に備えたにもかかわらず、突発事態であった。翌朝では困ると申し出、昼頃当日の19：10時発成田空港のシンガポール航空機に搭乗することが決まった。しかしそこから国内便ではなく新幹線経由で成田空港まで行くのは予想外に時間がかかり、夕方5時のチェックインにやっと間に合うという慌てさせられる経験をした。そこで当日昼間には到着できず、深夜シンガポールに到着した。ホテルまでは集中豪雨のような大雨でさすが雨季と驚いたが、毎晩降るが、「朝になると晴れていますよ」とガイドに教えられたとおり、滞在中は大して雨にはたたられることのない日々であった。翌朝早朝（26日）にホテルに着き、すぐに就寝した。

26日（火曜日）。睡眠不足で朝やや遅く起床して、予約しておいた当日夜の公演のチケット入手と観劇の予定をたてるために、とりあえず場所や所要時間など調べようとエスプラネードの下見に出かけた。夜の観劇に便利のようにマリーナ地区のエスプラネード近辺にホテルを選定しておいたのだが、実際行ってみるとホテルの前の通りを挟んで真向かいにエスプラネード・アーツ・センターがあり、正面入り口には少々歩く必要があるが、横の出入り口ならホテルと真向かいと分かり、たとえ真

夜中でも安心と分かった。

まず、地下のエスプラネード・チケットセンターで『シンガポールの歴史』のチケットを受け取ったあと、翌27日（水）にエスプラネード関係者にインタビューと劇場見学を申し込んであったので、その事務室の位置確認をした。その後劇場内を自由見学していると、コンサート・ホールの入り口で案内していたスタッフに昼休みの無料コンサートを勧められ、思いがけなく新進のロック歌手の「ダフネ」のランチボックス・コンサートを楽しんだ。

コンサート後、このエスプラネードのモール（ビルの中の商店街）で食事し（寿司！ 当然完全な日本式でないが、モール自体は相当高級店ばかりらしい）、午後はツーリスト・インフォメーション・センターを探し歩いた。劇場での催しものの情報提供とチケット入手を世話してくれるプレイガイド式の場所を探したが、一方、あらゆるデパートやモールにインフォメーション・センターがあるため、ホテルや道案内で、それを Tourist Information Center という英語で聞くと、規模の小さな案内所を教えてくれ、迷い続けた。結局さんざん歩き回った末、ダウンタウンのオーチャード・ストリートのヴィジターズ・センターしか私の求める業務を行っていないとわかった。しかし、1週間の訪問中には、劇場での公演は、『シンガポールの歴史』以外ないことがわかった。訪問予定のヴィクトリア劇場における翌日のバレエ公演のみが、劇場における舞台公演であった。しかもそのチケットもとれず、翌日当の劇場で確かめても入手不可能であったが、劇場見学の折、リハーサル風景を見学できた。

26日夜は、私の主目的である『シンガポールの歴史』の観劇であった（座席は Foyer Stalls の AA 54 で公演は夜 8 時開演という欧米式時間であった。チケットは最高席より一段安い席なので S. \$80.00）。公演内容については詳細を後述する。

27日（水曜日）。エスプラネードに出かけ、午後 2 時から劇場見学とインタビュー。夕方遅くまでかかった。施設は国立劇場であるものの、運営は公的補助金を受けながら民間会社がうけおい、国（＝政府）に正確な財政状況の報告を行っている。そのため、面会した劇場関係者は部長と聞いて驚くほど、若い人達で（30-40代に見えた）、それも女性が多く、新企画に積極的な、元気一杯の職員に圧倒された。日本のお役所仕事的なお金が無いから、大したことはやれない式の態度が皆無であったのが、印象的であった。4 節で詳細後述。

28日（木曜日）。朝からヴィクトリア劇場（ヴィクトリア・シアターとコンサート・ホール）の見学。地図で見て、ホテルから近くらしいと思い、歩いてヴィクトリア劇場とコンサート・ホールの見学に出かけた。エスプラネード・ドライブがフラトン・ロードに交わるところで、The Fullerton というドーリア様式の円柱が続く外観で格式高いイギリスのホテルを見ながら、フラトン・ロードに入っていくと、あたりはイギリス植民地から始まったというシンガポールの歴史を感じさせる雰囲気である。ラッフルズが最初に上陸した北ボート埠頭（North Boat Quay）に隣接するシンガポール川流域には、イギリス 18-19 世紀建築様式の国会議事堂、最高裁判所、市役所が集中し、イギリス風な建物が建ち並んでいる。ヴィクトリア劇場は、シンガポールでも最古の建物、旧国会議事堂を利用し、今はさまざまなイベントを催しているアーツ・ハウス（The Arts House）とも隣接している。ヴィクトリア・メモリアル・コンサートホールとシアターの中央正面入り口前にはラッフルズの

1819年上陸記念のブロンズ像が建っている。あらゆる面で歴史を感じさせ、また19世紀イギリス小説を読んでいる私には、建物や通りの風景がイギリスに似て懐かしい感じをうけた。雰囲気はひたって散歩のように歩き回り、楽しんだ。

ヴィクトリア・シアターは1862年に市庁舎として建造された。ホールのほうは1905年にヴィクトリア女王のために作られた記念館。現在はクラシックのコンサート・ホールとして海外演奏家の公演にも使われている。シンガポールで一番歴史のある劇場ということで、19世紀の劇場はかくもあらんとする雰囲気であったが、現在は公営とはいえ完全な貸しホールであるので、劇場に勤める公務員は劇場と芸術振興というような考えはなく、ただ大勢の借り手があり、十分に活用されている劇場に働くことに生きがいを感じているようであった。訪問した折、地域の私立学校学生が演じ、学生が観劇するバレエの上演のリハーサルが行われていた。その上演前のリハーサルをしばらくの間見学し、この学生達が使っている楽屋も案内してもらったが、楽屋は非常に殺風景で、踊り子たちを、ある意味ではちやほやししながら、実は下層労働者として待遇していた18-19世紀の階級社会的な歴史を思い起こさせられた。劇場自体は小ぶりながら（904席）、赤ピロードの絨毯と座席で、19世紀風であった（見学したホールは19世紀風が多かった）。

演劇研究をしており、劇場見学をしているとそこで話すと、国立図書館（National Library）内にある劇場、ドラマ・センターを見学すべきだと勧められた。そこで、午後ヒル・ストリートをのぼりヴィクトリア・ストリートを北へ進んで、モダンな16階建ての国立図書館に行った。劇場は新装の立派な図書館の3-5階を占めているのだが、残念ながら一般人には進入禁止になっており、一階の受付で見学とインタビューを申し込んだが、今リハーサル中で忙しいので不可能と断られた。図書館案内によれば、国立芸術評議会（National Arts Council：日本の芸術振興会）に運営されており、近代的な機構・音響設備をもった多目的の615席の額縁劇場と120席のブラック・ボックスと3重の目的をもった多機能の部屋をもち、現代建築による小さな芸術劇場の体裁と機能をもつ。さまざまな公演から、トークや展示にまで利用されている。実は出張前に、どの劇場が重要かを知らないまま、ほぼ全ての劇場にEメールを使い、見学を申し込んだが、この劇場には返事をもらえなかった。後で考えると正月期間中なので、事務が滞っている間に届いたメールで無視されたのであった。そして、限られた日数でそれほど多くの劇場に行けるか不安だったのと、交通の便も不明だったので、返事の来た劇場だけで十分ではないかという状況で出発した。結果的にこのドラマ・センター見学の許可が得られなかったのが、今回の調査対象では心残りの結果になった。次回の調査に期待したい。

実は見学できたヴィクトリア劇場もアドレスが分からず、ヴィクトリア・コンサートホールへの連絡により、劇場のほうの「主任」の名前とアドレスを教えてください連絡した。が、主任が出張中のために、返事がもらえず、劇場を訪問した際、連絡しておいたからと言うと見学とその事務室の公務員2人が簡単なインタビューに応じてくれ、資料をいただけたし、見学もさせてもらった。見学、調査に対応してもらうには予約が必要という当然のことを学ばせられた。

29日（金曜日）。国立博物館（National Museum）見学。多くの展示物があったが、特に2階の「シンガポールの歴史」の常設展示は、観劇の後でもあり、とりわけ感銘をうけた。博物館全体の相

当なスペースを使い、太古からの歴史を展示してあったので楽しみながら、前夜見たミュージカル作品『シンガポールの歴史』が、序幕は虚構にしてもミュージカルの1幕、2幕の歴史は史実にそっているのだと知ることができて有益であった⁽¹⁾。単なる展示だけでなく、オーディオ&ヴィジュアルでも大いに楽しめた。多数のビデオが用意されていたし、現代に近づく各部屋で、その区切られた時代についての詳しい説明と展示があり興味深かった。日本軍に関係する部分は日本人にとっては逆の視点から見させられ印象的だった。展示はもちろん英語説明もあり、携帯用カセットテープ式マイクロフォーンで、英語説明を聞くことができた。長時間見学することになったが、素晴らしい展示で、知的好奇心を満たしてくれ、しかも楽しい充実した展示であった。

次にシンガポール美術館 (Singapore Art Museum) 見学。オーチャードロードをはさんで国立博物館の向かい側にある。現代美術中心だが、それでもシンガポール独特のものを感じた。続いて近くの中心街の高島屋デパートへ行くと、日本式デパートと欧米のブランド専門店とが、各階ごとにフロアを左右にわけて展開しているのに、日本資本でも多民族国家シンガポールの人々向けだと感心した。高島屋の6階の紀伊国屋書店は日本の新宿本店よりも充実していて、ついつい長居して、シンガポール関係の様々な本を買い込んだ。欧米のペーパーバックでも非常に多量においてあった。

3月1日(土曜日)。朝訪問したのはモームの泊まったことでも有名なラッフルズ・ホテルにある小さなホテル内附設の劇場ジュビリー・ホール (Jubilee Hall) で、ホテル同様歴史のある劇場である。私の宿泊ホテルから非常に近く、ホテル前の道路ラッフルズ・アヴェニューがスタンフォード・ロードと名称を変えたところで南北の通りブリッジ・ロードに入り、それを北に進むと大きな Raffles Hotel Shopping Arcade に行き着く。というわけでホテルから徒歩でホテルに戻った。ホテルの入り口はむしろショッピングモールに囲まれている。ここは『シンガポールの歴史』の主演女優セリーナ・タン (Selina Tan) がキャバレー形式で始めた作品を、初めて劇場初演して人気の出た2003年の上演劇場である。この成功がエスプラネードに2時間以上の本格的演劇作品として上演できるきっかけになった。

劇場はホテルの一角にあるが、Eメールでは返事をもらえなかったので、当日ホテルから電話をかけて劇場見学を申し込んだ。ホテルの受付とは別に劇場の電話があり受付がいるということだったが、つないでくれ、劇場に電話の直後見学に行けることになった。劇場はホテルの2階にあり、中庭を囲む一角にある。劇場は舞台正面の古い油絵や、赤ビロードの幕や、赤い絨毯の床、赤ビロードの座席、シャンデリヤその他の装飾などからも、19世紀的豪華な雰囲気をもっている。だが古いせいか換気が悪い。貸しホールなのだが、例えば1月は毎週毎のプログラムで演劇が上演され、パトロンや名士の臨席があることが案内に書かれ、古い劇場の伝統を受け継いでいると感じた。当日午後市内の高校によるコンサートのリハーサルがあるとのことであったが、プログラム、日程表をみると小規模なものにしてもかなりの頻度で公演が行われている。ホテル内の小さな博物館には、歴史的な写真を始め貴重な展示があふれ、19世紀に盛んであったホテル併設の劇場の文化的重要性を再認識させられた。巡業劇団が回ってきて数日の公演を行い、俳優達がホテルの客と社交的にも交際するというホテル生活を、いかにも19世紀風の有名人と俳優達の多くの写真が物語っていた。イギリス現代

小説とその映画化作品『いつかどこかで』のそうした女優のヒロインの一流ホテル巡業公演を思いおこさせた。座席数388席のインティメットでしかも良い劇場という雰囲気をもっていた。

ホテルはボーイがターバンをかぶりインド風の衣装で従僕 (footman) を務めていて、いかにも19世紀のインド、イギリス植民地という雰囲気であった。中庭で宿泊客以外の人も利用できる屋外のカフェがあり、そこで飲み物を楽しんだ。スリングという飲み物 (カクテル) が有名であるが、アルコールの飲めない私は遠慮した。

3月1日夕方、ホテルからツアー会社のバスで空港へ向けて出発し (私には不必要な免税店に行くため)、深夜 (早朝) 便でセントレアに向かった。

4. エスプラネードとインタヴュー

エスプラネードは、別名「湾に面した劇場」(Theatre on the Bay) という名称の通り、マリーナ湾に面し、シンガポール川の河口に劇場が建っている。建物はエスプラネード公園と呼ばれる海岸地区にある。この公園の名称はイギリスの摂政時代 (1811-20) のジョージ4世の建てたロイヤル・パヴィリオンのあるブライトンの海岸通りの散歩道を思っってイギリス人の名づけた地名と思われる。ブライトンは海辺の保養地、冬暖かいリゾートであったから、19世紀初めにシンガポールに来た英国人はブライトンを思い浮かべたのであろう。エスプラネード公園の芝生と緑地には、エリザベス2世の戴冠式を記念して名づけられたエリザベス・ウォークのように、公園の緑地の中を大きく横切り南へとマー・ライオン・パークまでマリーナ湾のごく傍を通る散歩道や、またエスプラネード劇場側の湾に面した海岸通りの道などすばらしい散歩道が走っている。

エスプラネードはシンガポールの芸術文化センターであり、さまざまな公演や催しを企画運営している。マイケル・ウィルフォード (Michael Wilford) によってデザインされたエスプラネードの外観はシドニーのオペラ・ハウスに劣らず注目すべき外観の建物であり、自国の建築制作と誇りにされている。

上から見ると大きな楕円形の屋根がある建物が左右にあり、中央に石段で登る正面玄関がある。2つの楕円形が交わる三角形のスペースは大きな正面ホールになっている。屋根は、マレー特産の果物ドリアンをイメージしていると教えられたが、一方、パイナップルとも見える先端の尖った外皮が三角形に区切られたダイヤ柄の連続で市松模様のようにになっている。一面の連続した三角模様はガラスのように光る鋼鉄で、そのとげとげした外皮全体が半円形の屋根となり、建物全体に被さっていて、全体では大きなドリアンが2つ横に寝ているような形となっている。このユニークなドリアンのような屋根は、遠くからでも良く見え、シンガポールを歩き回る時方向を知るのによい目印になる。ここに音楽会用のコンサート・ホール (1600席余)、オペラや大規模な舞台芸術公演のための4層で伝統的馬蹄形の劇場 (2000席) があり、サイズのにもほぼ愛知県立芸術文化センターと同様の劇場施設と美術館のあるアーツ・センターとなっている。外観だけでなく、国家事業として建設され2002年完成という新しさだけに音響設備も劇場機構もすぐれた施設である。

次に、26日の無料昼休みコンサートについて述べ、エスプラネードの広報運営活動と、劇場の文化政策について考えたい。

この無料コンサートのアーティスト、ダフネは、新しいデビュー・アルバム“Desperate”（「絶望して」）を2007年12月にリリースしたばかりで、恐らくこの時初めてエスプラネードに招かれたのだった。3人のバンドと本人のギター伴奏により自身の作詞作曲のポップス（ロック）を歌った（Amir Masoh 楽器演奏、アレンジ（ジャンルは Alternative rock, Indie rock, power rock）。“Desperate”の演奏はキー・ボード Leonard Soosay、ギターとベース Jude Lee、ドラム Jonathan Ong）。ダフネは中国系の若い美人であった。ロックということであったが、昼のコンサートのせい、ロックの激しさより、彼女の持ち味のエレガントな曲で昼の休憩にぴったりのコンサートであった。客は昼休みということで仕事の合間の人々と、主婦らしい人々、老人がめだつた。シンガポールの常として観光客も大勢と思う。

翌日のインタビューで聞いたところによると毎週1回程度このような無料コンサートを劇場の主催で行っている。火曜の他にも日曜日の「ビューティフル・サンデー」や「アフタヌーン・ティー」また「コーヒー・モーニング」、「レイト・ナイト」と呼ばれる定期的な各種の無料コンサートがあるからである。

このアーティスト、ダフネ・クー（Daphne Khoo）は、オーストラリア、パース生まれで、8才の時に家族とともにシンガポールに移住した。中国系だからだと思われるが、多くの国からの移住を積極的に歓迎しているシンガポールだけにこのような他国からの移住者の多い状況が読み取れる。彼女は現在ニー・アン工科大学（Ngee Ann Polytechnic's School）の映画とメディア研究学科（Film and Media Studies）の4年生である。「ウエスト・グランド・ブールバード」（West Grand Boulevard）のリード・ヴォーカルであったが、シングル、“Shooting Stars”（「流れ星」）を2004年にリリースしている。他にも非公認のリリースが数枚ある。彼女が脚光を浴びたのは、2004年のシンガポール・アイドル（Singapore Idol Season 1）第1回のコンテスト出場者となり、次にアジア・ソング・ウィーク（Asian Song Week）で第4位になった時である。

シンガポール・アイドル（Singapore Idol）は、テレビ局 MediaCorp TV のテレビ・ショーで、新人歌手発掘の公開コンテスト番組であり、優勝者にはソニー・レーベル（Sony BMG）からのレコード発売が約束されている（日本のスター誕生を思わせるもの）。歌手といっても、歌って踊ってというタレント性が要求されている。プロの審査員はいるものの、観客投票により第1次通過、第2次審査、第3次審査へと進んでいく。そこで時折実力者が落ち、意外な歌手が決勝に進むことにもなる。2004年8月9日建国の日（National Day）に第1回の最初のコンテスト初日があり、第1回の最終審査は初日から約4ヶ月後の2004年12月1日にシンガポール室内スタジアム（Singapore Indoor Stadium）で行われた。最終候補者は12人。そして最終審査（The Final Showdown）は大きな会場での観客投票を含めた公開審査で行われる。

ダフネ・クーはこのコンテストに出場した結果、シンガポール・アイドルのためのオンライン・プログラム（Singapore Idol -on Demand）で司会を務めることになった。その他彼女はシンガポール

の若者向けテレビ局で特集番組を組まれるスターの一人である。

2007年12月の“Desperate”が公認デビュー・スタジオ制作・アルバムで、これは東南アジア、シンガポールで好評をもって迎えられた。

こうした新人演奏家のコンサートをエスプラネードは無料で毎週市民に提供している。コンサート・ホール（1600人余収容）一杯の観客は、コンサート後のサイン会に押し寄せ、CDを買う。これで新人歌手は名を売りファンも獲得することができ、次の有料コンサートでは客を集めることができる。一方劇場は観客層を広げることができる。こうした一挙両得のエスプラネードの巧みな観客獲得戦略であった。主催者側にも、歌手側にも双方に利益のある公演形式と感じた。

エスプラネードは私が今回訪問したいくつかの劇場の中では格段に進化した現代的なアーツ・センター方式の劇場である。『シンガポールの歴史』は馬蹄形オペラ劇場に相当する大ホールで上演されたが、ランチボックス・コンサートを上演したコンサート・ホールは4,740本のパイプのパイプ・オルガンを備えたシンフォニー・ホールである。

この他に2つのスタディオ、演劇用スタディオ（220席）とリサイタル・スタディオ（245席）があり、そして当然リハーサル・スタディオを備えている。多目的の野外劇場（Outdoor Theatre：500席）もあるが、当時修理改築中であった。これはギリシア風円形野外劇場的なものになり、子供たちを楽しませるサーカス的なショウや、子供たちと家族のための公演、さらにクラシック以外にジャズからロックまでの音楽の公演に使用される。しかも湾を見下ろすすり鉢型の観客席が作られるようであった。また私が鑑賞した無料コンサートのような催しの他にも、無料で多くの催しを積極的に行い、広報活動を行っている。演奏家は大きく報酬はもらえないのだが、エスプラネード出演ということで人気を得ることが重要なのであろうと感じた。その他、ループテラスがあり、野外での公演や教育活動に使われている。

エスプラネードの正面、2つのドリアンの交わる正面入り口にはほぼ三角形のロビー空間（コンコース）があり、大きなグランドピアノが置いてあり、全体がちょっとした円形劇場風の段差のあるスペースになっており、その下で市民が申し込んでほぼ毎日演奏会を開いてよい場所になっている。もちろん見るのは無料である。こうした催しは劇場と若者を結びつけると思われた。私が見た時にも若者のバンドが若い人の好む演奏を行っていて、劇場内に気に入った場所に自由に座った市民から拍手を受けていた。クラシック観劇者にはどうしても高齢者が多くなりがちであるので、若者を対象とした、劇場に馴染み親しむための集客の企画は好感がもてた。また中庭では週末に野外公演が行われる。この中庭に面したレストラン街は星空の下でのサパー（観劇後の夕食）のため開いている。

総じて、日本の芸術文化センターより、暮らしに密着した催しや公演が多く行われている。しかしこのアーツ・センターのメインは年3種類のフェスティバルである。海外からの一流アーティストの公演のほか、地元のアーティストも参加し、フェスティバルの期間中、付随的な多くの無料コンサートなどの催しもあり、ちょうど万博のようにその時期は多くのシンガポール市民や観光客をエスプラネードに呼びこんでいる。文化的民族的フェスティバルは、当然中国、インド、マレーとある。中国の正月の時期に開かれる中国フェスティバルは、人口から言っても最大規模のもので、内

容的にも国際的な名声のある海外からのアーティストによる公演、交響楽団、オペラ、京劇、バレエ、さらにポップスの公演がある。インド・フェスティバルは、ヒンドゥー教の「光の祭」(2008年では9月末から11月始め)の時期で、インド人街セラグーン・ロードがライトアップされ、花火やパレードなどが行われるが、エスプラネードでもシンガポールの他、インドネシアなど近隣のアーティストも参加し、民族舞踊や子供たちの音楽劇などが行われる。マレー・フェスティバルも秋であり、地元と近隣のアーティストによる伝統的公演と同時に現代的音楽のロックやポップス公演もあるが、マレー式舞踊の他、ジャワ式舞踊なども呼び物である。これらの文化的イベントには、数多くの無料公演が、野外劇場、コンコース、テラス、中庭などで開かれ、2007年のエスプラネードの各祭には何万人も市民が押し寄せた。

こうした民族的フェスティバルの他に、コミュニティ・フェスティバルと呼ばれる子供の日を中心としたフェスティバル、中高年むけのフェスティバル、さらに若者の交流をめざしたフェスティバルがある。最後にモザイク・ミュージック・フェスティバルは電子音楽や世界音楽を主にした地元と海外アーティストの音楽祭である。さらにダンス・フェスティバルもある。いずれも地域に密着した無料または低価格のコンサートや催しが付随していることが重要である。

27日(水曜日)午後のインタビューでは、まず最初からのメール連絡の相手で、訪問約束をした劇場広報部長のヴェロニカ・ゴ氏(Veronica Goh: Public Affairs Manager)に会い、彼女の手配で制作関係のリー・チェン・ヘン氏(Lee Cheng Heng: Senior Production Co-ordinator)にエスプラネード劇場の全体の案内や舞台機構・建築関係の説明をしてもらった。次にヴェロニカに事務室の一室に案内されて、お茶を飲みながら企画運営のジョビーナ・タン氏(Jobina Tan: Programming)にエスプラネードの企画と経営戦略を話してもらい、大量の資料を頂いた。さらに『シンガポールの歴史』のプロダクション関係の人に会いたいと希望を出しておいたので、プロダクション・マネージャーのシャーリーン・アブダラー氏(Shirleen Abdullah)に彼女の楽屋を訪問し、説明を受けた。

5. 『ディム・サム・ドリーズのシンガポールの歴史』

シンガポール、正式にはシンガポール共和国は、人口の77%が中国系、15%がマレー系、6%がインド系であり、そして公用語は中国語、英語、マレー語、タミール語である。私は英語で全ての用件をすませたため、シンガポールの完全な理解といえないかもしれないという一抹の不安を持っている。

こうした人種の混合の国であることが、この『ディム・サム・ドリーズのシンガポールの歴史』にも反映されている。実はディム・サム・ドリーズが何を指すか、始め釈然としなかった。インタビューでプロデューサーのシャーリーンに聞いて、プログラムの中に挿絵風にかかれた点心という中国語のわけも納得したのであった。ディム・サムは、中国語点心の広東語発音のローマ字化である。日本語では点心と呼ばれる小さな軽食が1つの入れもの(皿か蒸し籠)に、2、3個ぐらい入った食べ物である。通例3つずつということから、この劇の3人の主演女優を一皿に3つ乗った點心にたとえている。ドリーズ(dollyの複数)は人形や女の子を示す幼児語(愛称)であり、そこで三人娘と訳すことにす

る。公演批評によれば⁽²⁾、この作品はやはり歌う三人娘を主人公としたミュージカル、『ドリームガールズ』(Dreamgirls)に明白な愛情と敬意を捧げているようだ。三人娘、多くの歌曲やダンス、数多くの衣装の変化、明るく楽しい会話をはさむミュージカルという点から、その賛辞や模倣は明白である。

この三人娘は、これまでに幾つものディム・サム・ドリーズという副題をもつショウを上演しているが、この『シンガポールの歴史』は、ディム・サム・ドリーズの第6番目で成功作と言える。シンガポール第一のエスプラネードのオペラ劇場で上演、再演されたので、本格的なミュージカルとして評価されていることがうかがえる。彼女たちの中で一番年長のセリーナ・タンが中心的な台本と歌詞の作者である。シャーリーンとのインタビューによれば、2003年以來の作品なので、上演の度に出演者同士で演じている間に、話し合いながら毎回ヴァージョンアップしているとのことである。それぞれがコメディアンである三人娘の他の2人、エマ・ヤングとパメラ・オエイ(パム)、またこの三人娘と共に重要な役者であるホッサン・レオンが、この歌詞や台詞の改善向上のための協力者である。彼は三人娘が着替えている間を埋める役だが、それだけでなく彼の魅力ある演技はこのショウ全体の価値を相当に高めている。

彼らのショウの音楽は最初から常にセリーナの歌詞にエレイン・チャン(Elaine Chan)が作曲した楽曲である。今回が一番インパクトがないという批評⁽³⁾もあったが、聞いていて十分に楽しめる音楽であった。

セリーナとエレインの2人は2005年の国民の祝日・建国の日のパレード(NDP)用の主題歌“Reach for the Skies”(「空に届け」)を書き、セリーナが関わるWILD RICEという劇団や、彼女の主宰するドリーム・アカデミー・プロダクションのミュージカル作品の曲も作曲した。エレインはこうした劇場音楽の他に、もちろんクラシックの聖歌、合唱曲などを作曲している。

『シンガポールの歴史』は元来、エスプラネードのリサイタル・スチューディオでの実験演劇から始まったキャバレー・ショウということで、オペラ劇場の公演でも私から見るとせつかくの劇場機構が利用されておらず、簡単な装置であった。ショウ的には華やかで観客は満足したようだったが、2007年にすでにエスプラネードで上演され、再演の2008年2月は観客の服装を見ても、オペラと同じような扱いをうけ、本格的なこの年の目玉公演(gala night)という印象を受けた。

CDも発売されており、英語で上演されたものの、シンガポール英語(シングリッシュ)が理解できないので、インタビューの際、シャーリーンに台本を欲しいのだからとお願いしたら、幸いにも2007年版の台本(64頁のもの)を送っていただいた。結末部分、アンコール部分が違えば、ほぼ観劇した2008年版と同じである。ただし公演毎に細かい点をヴァージョンアップしているとの説明を受けているので、私が聞き逃している箇所もあると思う。以下その台本に基づき、『シンガポールの歴史』がどのようなミュージカルであるかを説明していきたい。

実は、シングリッシュのみならず、中国語標準語でなく広東語なまり、さらにマレー語、インドのタミール語といったものが、英語台本のためローマ字化されていて、完全な理解が難しかった。シンガポールで買った学生用程度のシングリッシュ辞書では間に合わず、結局ネットで調べたり、先方に質問したり、いろいろと中京大学の先生方に尋ねたりして、調査が難航したので、台本も注が多く

なっている。

6. ストーリー紹介

まず、ストーリーと印象的な場面を解説を加えながら紹介したい。

(1) オープニング

オープニングは暗闇から始まり、ディム・サム・ドリーズ（以降DSDと省略）のバックからの歌声。「あらゆるところが暗闇の時にこの島シンガポールは存在しなかった。偉大な男（神）が大きな光があれと言うまで」。先触れのトランペットの大きな音が鳴る。

セリーナ、エマ、パムのDSDの声が対話。突然大地ができて、神は気に入って微笑んだが、この島はどこにもなかった（以降セリーナはS、エマはE、パムはPと省略）。

P：そして突然彼はくしゃみしたいという信じられないほど強い欲求を感じた。

DSD：アー、ハーク、クシャーン！！

[舞台が現れる、そして島を見せる。]

DSD：[歌] テマセク（Temasek「海の町」sea townの意）は大きな島じゃないけど。小さなくしゃみから生まれた。世界中あらゆるところに多くの冒険が危険を冒して行われていた。

[アレキサンダー大王（ホッサン：Hossan、以降Hと省略）が登場。]

P：まあ、見て！

DSD：アレキサンダー大王？

P：スカートをはいて。

E：何てめめしい？（How camp^{(4)?}）

S：彼はこれから野営地を設営するようだ（campという語の二重の意味による皮肉・pan）。

H：この島は私のように偉大な男にはあまりにもちっぽけすぎる。

[アレキサンダー大王退場。]

S：島は何年間も創立の父もなしで嘆き悲しんだ。

[という趣旨で3人が会話した後、ホッサン扮するジュリアス・シーザー登場。]

DSD：ジュリアス・シーザーだわ。

H：私は来た、私は見た、私は征服した。（テマスクは）あまりに小さすぎる。

[シーザー退場。]

E：また再びテマセクは拒否され一人ぼっちに取り残された。

[ジンギス・カーン（Genghis Khan）に扮するホッサン登場。]

E：あれはすばらしく美貌のモンゴルの王だわ。

S：偉大なジンギス・カーン（Khan）だわ。

H：僕にはできない（canで上の行、下の行と韻をふむ）。

[ジンギス・カーン退場。]

DSD：きっとあなたにはできるわ (can)。おー。

E：何世紀もの間、多くの人々が私達の小さな島に危険を犯しやって来た。

S：海からやってきたものもいた。

P：象に乗って来たものもいた。

E：徒歩でシルクロードを通して来たものもいた。

その後、ホッサンがマルコポーロ、コロンブス、ヴァイキング、ナポレオンと帽子、衣装を変えるだけで、この島に来て小ささに失望し退場する英雄を演じる寸劇（1分もかからない、数行のせりふのみで役を交代）が続く。もちろん、ここはでっちあげで、衣装の早替わりと小さな有名なセリフとミュージカルの曲の一節をもじっている。例えばコロンブスの登場の時、「アメリカに行きたい」（『ミス・サイゴン』(Miss Saigon) の歌の一節）と歌う DSD が観客を笑わせる。

最後にホッサンはチョン・ホー司令官 (Admiral Cheng Ho)⁽⁵⁾ としてワヤン (ジャヴァ島の影絵芝居)⁽⁶⁾ のシンバルを鳴らしながら登場。

H：私はチョン・ホー・チン司令官だ。テマセク島を探している。どこにテマセクはあるのだ？

しかし、次にホッサンは、紳士淑女の皆さん、クレージーでほとんど野暮ったい三人娘をご紹介しますと口語的でふざけた言葉 (crazy, wacky, tacky) でも笑いをとる。ここでプロローグが終わる。ここまでは歴史ではなく、全くの想像の空想的ストーリー。

● 1 幕

(2) Introduction

DSD は人魚の姿で水から（下から）現れ、歌う。開いた貝に DSD が横たわり、きらきら光る人魚の衣装を着ている⁽⁷⁾。

シンガポールの歴史上、これ以上おかしなショウはこの海辺に来ませんでした。

DSD：点心三人娘が私達の小さな地図の神秘を広げて見せるショウに参加してください。

その後、これからの歴史の一部を次々にこのミュージカルの歌のフレーズだけで予告案内する。締めに DSD はテーマソングを歌う。

DSD：[歌] あなたが落ち込んだ時

あなたがしかめ面になっている時

あなたは道化のふりをなさい、

間違っただけにほほえみかけている道化に。

そうする時、あなたはわかる

あなたが行かなければならない場所がある

ちょっとみせかけをすればあなたの心は喜びで輝くと。

DSD：私たちは点心の三人娘、私達の物語で必ずあなたがたを勇気づけるでしょう。私達の島につ

いての陽気な話と囀る歌で、あなたに毎日歴史の一片を与えることによって。

“He cha chi dian xin Dian sin Dian sin-jia-po” (NDP 建国の祝日のパレードの歌のリフレーン)

DSD: [歌] あなたは私を一口食べたい。急ぐ必要はない、3個見えるでしょう。3個のハートが1つの入れ物に乗っている。私達は蒸され蒸気があがり、輝き、あふれるほどたくさんで、ほほえんでいる。

DSD: 完全じゃない、それが歴史よ。点心三人娘 (Dim Sum Dollies) による歴史。

S: ありがとうございます。エスプラネードに戻れてすばらしいです。

E & P: そうですとも。

P: なぜ私たちが “dim sum dollies” という名前なのか人々がいつも尋ねます。

S: 私たちがそうよばれる理由は……

DSD: 私たちが dim sum (点心) を愛しているから。

E: 点心がとてもおいしいから。

P: そしていつも3個一組でくるから。

S: それでももちろん北京語 (Mandarin) では dim sum は dian xin で、つまり……

DSD: 小さなハートだから。

S: それを皆さんと分かち合いたいと思います。

E: そして点心のすばらしいところは多くの種類があることです。

P: そして皆が他のものと違うんです。

S: それぞれの個性に合うように違った点心がきつとあると私は賭けてもいいと思うのです。

E: ええ、たとえばパムを見てごらんなさい。

P: まあ。

S: とても小柄だわ。

E: 瑞々しいわ。

S: そして激しく怒るわ。

E: 彼女は似てるわ。

S & E: 小籠包 (Xiao Long Bao)⁽⁸⁾ よ。

P: 小籠包は点心じゃないわ。

S: 彼女は怒るって言ったでしょう?

E: 蒸し籠でくるのは点心だわ。

S: そうですとも、クリスタル・ジェイド⁽⁹⁾ で売られているのは点心だわ。

P: それじゃエマはどうなの? エマはとても簡単?

S & E: 卵のタルト (egg tart)⁽¹⁰⁾。

E: 誰が私を tart (不身持ち女)⁽¹¹⁾ なんて呼ぶの?

P: イエ、イエ、あなたがとても優しい (甘い) (sweetheart をかけて) と言っているのよ。

S: 滑らかで。

S & P：そしてわずかにさくさくしている。

E：もし私がさくさくのタルトなら、セリーナはどうなの？

P：明白だわ。彼女がどの点心だか当てたい人はいませんか？

観客の返事：叉焼包 (char siew bao)⁽¹²⁾。

S：あれを聞いたわね？ チケットを買って私のショウを見に来たくせに、私を侮辱するなんて。叉焼包 (char siew bao) ですって？ 赤い肉饅はとても小さいので1つの籠に3つ来るわ。私は赤い叉焼入り肉饅じゃなくて Dua Bao (大きな肉饅) よ。1つの籠に1つの私が入っているの。Dua bao galiao (野菜と豚肉入りの大きな肉饅)⁽¹³⁾ だわ。私はこのごろずっと「大きな (肥った) 肉饅」なので、どこへ行くにも6人のハンサムな裸体美をもつ男性 (Beefcake：以降「男性美の若者」か、又は次に述べる点心名の省略 LMG で言及する)⁽¹⁴⁾ に付き添ってもらうの。彼らを糯米雛 (Loh Mai Guys)⁽¹⁵⁾ とよぶよ (以降 LMG と省略)。さあ、若者よ出ていらっしやい。

[6人の若者達がセリーナを取り囲む。]

E & P：私もまたそれ (糯米雛) を分けあいたいわ。

S：あなた達点心を死にそうに欲しいのだと思うわ。でも点心を食べることはできない。

DSD：箸がないとね。

E：糯米雛 (LMG)、急いで箸をもってきて。

[ホッサンを持ってくるため退場。]

S：彼なしにはやっていけないわ。

P：紳士淑女の皆さん、私達の唯一の箸を歓迎してください。

この劇では、DSD が点心であるのに呼応し、ホッサンは箸 (chopstick) という役柄である。

DSD：ホッサン！

[登場！ シーザーに扮装している。]

H：こんにちは。

[LMG は彼を頭上にかついで舞台奥へ運びさろうとする。]

P：彼はいつも運ばれているのね。

E：どうしてシンガポールの歴史がシーザーをもっているの？

P：そうね、ジンギス・カーンが本当に来たの？

S：私が何に見える？ 大学教授？ 歴史の授業なの？

P：まあ観客の皆さんの顔を見てごらんなさい。皆さん心配そうだわ。そんなこと歴史の本で学ばなかったよって顔しているわ。

S：私たちは点心よ。歴史には決して固執しないわ。

E：本なんか投げ捨てたわ。

P：ともかく、私たち点心の三人娘の想像力のはるかにもっと。

DSD：強力よ。

P：そして私たちの物語はずっと面白いわ。

E：もっと気をそそられるわ。

S：もっと色っぽい (naughty) わ。そして私たちは皆さんが色っぽいのを好きだと知っているわ。

DSD：色っぽい！

S：紳士淑女のみなさん、私たちの歴史を味わう準備ができましたか？

DSD：Dollies!

[p. 40のDSDのテーマソングをくり返して、この場が終る。]

(3) シンガポールの建国

サング・ニラ・ウタマ (Sang Nila Utama)⁽¹⁶⁾ の歌。

インドネシアの王子サング・ニラ・ウタマが船に乗って、シンガポールまで到着し、ライオンの島 (Singapura) と名づけた伝説的歴史に基づく1場面。頼りない臆病な王子をホッサンが演じ、高圧的な母をセリーナが演じる。

SNU (ホッサン) はギターを弾いて遊んでいる。母 (セリーナ) は王子なのだから獲物を殺す冒険に出るか、新しい都市 (島) を発見しに行かなければならないと言う。

船酔いする王子は嵐の航海で苦勞するが、恋人のシチ (Macsiiti：パム)⁽¹⁷⁾ が一緒に行って助けてくれる。やっと島が見え、上陸するとあまりに小さいので気にいらぬが、ライオンがいると聞いてシンガプーラと名づける。

サング・ニラ・ウタマの歌と合唱はP・ラマリー (マレー映画の人気監督) の映画音楽式のマレー音楽を用いた曲だと言うが、日本の盆踊りのような調子は良いが伴奏的で独立した歌曲としては面白くない曲である。

(4) 「5つのスパイス」の歌

次は熱帯ゆえの豊かなスパイスの歌。

[歌] 5つの香辛料が7つの海を航海した。

5つの香辛料は信じられないほど貿易の旅をする。どんな種類の香辛料でも。

あなたの生活に刺激を高めるために。貿易は実に成長し始める。

私たちはマレー群島の先端にいるだけだ。

あなたは香辛料の革命を味わいたい。

自由貿易港があなたの解決だ。

ショウガは刺激する。そして胡椒はピリから。

シナモンは甘くチリは壺の中。

あなたの港のこの星 (=八角茴香)⁽¹⁸⁾ は船に乗せられるのを待っている。

集散貿易倉庫は今まさに破裂せんばかり。

あんたが欲しいものを教えて。本当に本当に欲しいものを。

だから欲しいものを言って。あなたが本当に欲しいものを。

ここではDSDと他の脇役達が多種類のスパイスを模したぬいぐるみの扮装により観客を喜ばせる。

(5) マラッカ海峡の海賊

15世紀から1819年までのシンガポールの歴史として海賊を描く。海賊に扮するのは魅力的な男性美の若者5人 (LMG)。しかしリードするのはパム (Right Hand Man : 船長の片腕)、エマ (Left Hand Man⁽¹⁹⁾)、そして船長 (Captain Jack Shallow) のセリーナ。

「攻撃だ！」海賊の歌。

海賊：[歌] 攻撃だ！ 攻撃だ！

私たちはマラッカ海峡をまっすぐ通り抜けて航海する。

それは私たちの祖先の困難と同じだ。そうとも！

マラッカ海峡の先端まで航海する。

私たちは盗み略奪し強奪する。

私たちは盗み略奪し強奪する。

全員：[歌] 我々は海賊だ。ホー、アー、ホー、アー。長く zhong jin jina pi (マレー語) あれ。

我々は皆が分け前をもらえるように商品を手に入れるのに一生懸命働く。

風呂に入り、歯を磨き、髪を櫛けずったり、洗う暇もない。

我々は汚い海賊だ。我々は汚い海賊だ。とても汚い汚い海賊。

とても汚い汚い海賊。我々は法律や秩序は気にしない。

密輸の品は国境を越え、高波の公海での海賊行為、海賊行為。

我々は汚いとても汚い海賊だ。

[パラパラ techno 音楽⁽²⁰⁾ になる。]

そこにプラナカンの貴婦人 (Peranakan Lady : ホッサン)⁽²¹⁾ がやってきて、偽ブランドのコピー商品に本物よりずっと良いとあって感動する。海賊はそろばんで値段を計算し全部を彼女に売りつける。プラナカン・レディは海賊たちのダンスに加わる。

H : 東インド会社のイギリス人は皆私たちと商売をしたがるわ。なぜならプラナカンは事実上イギリス人だから。私たちは似たような容貌をもつ。こわばった上唇、鼻はわずかに空を向いている。お茶を飲む時、小さな小指を少し上に曲げるし。

[海賊はプラナカン・レディをそこに残して去る。船から汽笛の音。]

H : オー、また別の船が入ったわ。新しい船、もっとたくさんの買い物だわ。

プラナカンは15世紀にヌサンタラ地域 (イギリス植民地とオランダに支配されたジャヴァ島を含む地域) に移住した中国からの移民をいう (別名、海峡中国人)。植民地の英語教育と3ヶ国語話せる語学力により、プラナカンは裕福になり上層階級になった。そこで「プラナカンの貴婦人」という語も生まれた。

イギリス人同然と誇り高いプラナカンの貴婦人と海賊達とによって、マラッカ海峡の植民地貿易と海賊の横行の状況を描く。又当時にはなかったブランドもののコピー商品を笑のタネにする。イギリ

ス英語と、マレー風外出着の衣装ケバヤ、イギリス的高慢な態度により、観客はプラナカン・レディと察し、楽しむ。

(6) スタンフォード・ラッフルズとファーカー (1819年)

男性美の若者達 (LMG) はスタンフォード・ラッフルズ (Stanford Raffles)、ファーカー (William Farquhar) と一人のイギリスの使節として登場する。さらにマレー代表テメンゴング (Temenggong Abdul Rahman) と部下が登場。彼らは条約に署名する。

[DSD は中国娘 (Ah Lian⁽²²⁾) として登場。]

E : おはよう！ あなたはイギリス人 (ang moh⁽²³⁾ = 紅毛の白人) を見た？

S : とてもハンサム。

P : 持ってる銃より大きいわ。

S : イギリス人について何か知ってる？

E : 何？

S : 彼らはコローンのように匂う。

P : 私たちはもう村 (Kampong)⁽²⁴⁾ の娘ではいけないわ。私たちはモダンな娘なの。

E : そう言ったとこで、あまりにもモダンすぎてはいけないわ。白人を魅惑する異国的な魅力を持たねばね。

S : もう田舎娘 (山亀) のように見えてはいけない。様子も変えなきゃ。

E : 長い髪。

P : ぼうーとした目つき。

S : 身体にぴったりしたサロン⁽²⁵⁾。

E : サロンはとても重要よ。だから新しいサロンを作る新しい生地を買ってきたの。

[エマはバッグからバティックの生地を引っ張り出す。]

P : 見ましょう。

S : 悪くないわね。

[エマはシンガポール航空用のバティック生地⁽²⁶⁾を出す。]

DSD : すごい！

E : とても胸がどきどきだわ。新しいサロン。

DSD : パーティ！

[歌] Chorus : 私はただ言うだけ。私のイギリス人になって。

あなたはそれ以上求めない。私のイギリス人になって。

今晚あなたはきっとモノにするわ。私のイギリス人になって。

なぜ待っているの？ 私のイギリス人になって。

私は決して今までイギリス人を試してないわ。

Verse : 彼の目はまさに海のように青い。彼の髪は猿のように金色⁽²⁷⁾。

彼が私と私の国にすべての善行をしてくれる。彼はきっと歴史に残るだろう。

一晩だけが必要なの（この一行は『ドリームガール』の歌“One Night Only”の1節）

彼がリードすればいいと示すために

私は従順で小さい、そしてとても優しいでしょう。

この場面は、ラッフルズの上陸というシンガポールの歴史の転換期に言及しているのだが、それだけでなく、三人娘が演じる Ah Lian と呼ばれる中国娘をタネに皆を笑わせる意図がある。Al Lian はシンガポールの若い中国系の娘達に対する軽蔑的な呼称。ラッフルズのような地位の高いイギリス人なら、寝て好意を得たいという物質主義と浅薄さを示す。一方で、彼女達の会話は初めて見た西洋人（白人）に憧れながら（「蝶々夫人」症候群とも呼ばれる）、「紅毛の猿」と侮蔑的呼称を使った歴史を明らかにする。また、パーティに行くための装いサロンの言及により、白人男性との交際に熱中するサロン・パーティ・ガールをも指し、1970年代の退廃したシンガポールのイメージを喚起している⁽²⁸⁾。

ラッフルズの時代にいたはずのない、現代の娘達を登場させ、彼女達が風刺されている。

(7) リキシャ

リキシャは (Rickshaws)、1880年代にシンガポールに輸入され、人力で引くタクシーの役割を果たした。リキシャは安くて早いため、第二次世界大戦末に禁止されるまでシンガポールの重要な公的交通手段であった⁽²⁹⁾。ここでは植民地の階級社会の底辺労働者を暴露するだけでなく、イギリス人女性の要望を無視し逃れる人力車引きと英語を喋れないものの彼女の主人を軽蔑する中国人女中によって、労働者の支配階級（イギリス人）への抵抗を示している。しかし下級公務員の巡査は明らかにコメディにありがちな権威をふりかざすが間抜けな男として扱われている。

パムは駐車場の管理人 (pontianak: マレー民話・吸血女) として機械をおし、2つの人力車に駐車違反チケットを貼る。人力車引きの男2人（男性美の若者達）は笑うが、舞台裏からホイッスルを鳴らして巡査（ホッサン）が登場すると、逃げ去る。ホッサンは「生まれ」の看板をもった巡査としてやってくる。別の人力車の男（セリーナ）が人力車を舞台に引いてくると巡査はホイッスルを吹き、彼女を止める。「毎日道路を閉鎖する他にすることがないのか？」と巡査は雑言をあげられる。結局スピード違反だと捕まえようとするが、人力車の男（セリーナ）はへこたれない。エマも別の人力車の男としてやってきてセリーナを応援し、口論していると次の人力車の男パムが酔っ払ってやってくる。次に飲酒運転で捕まえようとするが、セリーナが盾になっている間にエマ、パムは逃げ去る。飲酒検査の間抜けさ加減。言い逃れしていたセリーナも巡査をおしのけて逃げ出す。公務員の無能さからかう。「生計をたてるために働いているのに」とセリーナが言うと、「僕も生計をたてようとしているんだ」と応える台詞は、一方で小役人に同情もあるのか？

次に2人の人力車引き登場（別の男性美の若者。この場面の話者ではBと省略して示す）。イギリス人女性（エマ）が登場。彼女は人力車引きに声をかける。

E: アー待って！人力車。

B3：呼び出した。呼び出した。

〔B3は人力車を引いて退場。〕

E：人力車！

B4：どこ行くの？

E：クリケットクラブへ御願います。

B4：交代の時間だ。交代の時間。

〔B4は人力車を引いて退場。〕

E：最近は人力車を捕まえるのが不可能だわ。将来は公共交通機関が進歩するよう希望するわ。誤解しないで。今日の天気はとてもひどいの。とても暖かくて湿度が高い。明日はもっといい天気になればいいけど。

〔中国人女中 (Amah) チュー夫人としてパムが背後から登場し、エマを少々脅かす。彼女は広東語で話す。〕

E：暑いわね (と再び天気の不平を)。

P：ここはシンガポールよ。皆暑いわ。このイギリス人ときたら。

〔PはEにパラソルで1押しする。〕

E：まあ、私の女中だわ。私にはつきり話すわ。彼女はいつもとても静かだわ。時々彼女がいるのを知らないことさえある。ね、彼女は私の黒と白の一軒屋 (チュウダー式イギリス家屋) にとてもうまく調和している。彼女は英語を一言もしゃべらないけど、完全に私の言うことを理解しているようだわ。〔女中にむかって〕 そうじゃない？

P：(一人言) あなた？私？ 〔奥様にむかって〕 私はすべての仕事を終えました。

E：とても早く覚えたわ。すばらしいハイ・ティーを準備するのをすぐに覚えたし。そうよね。ハイティー？

P：(一人言) 彼女はファイティファイティと言い続けている。私はただの老婦人よ。だけどあなたの頭にファイティ。

E：彼女の特製はきうりのサンドイッチなの。ほんのちよっぴりツナを入れてね。〔女中にむかって〕 ツナを知っているでしょう？ ツナ トウイ (Tuna ... Tui) nah.

P：(一人言) tui meh ah⁽³⁰⁾? おかしな女！ どこで広東語を覚えたのかしら。イギリス人はとても下品だわ。毎午後 tui, tui, tui と叫んだりして。

〔Pは歩き去ろうとする。〕

E：ツナのことを考えて興奮したんだわ。〔パムが立ち去ったのに気づいて〕 アーマー、待って。

〔E退場。〕

この場面は、さして動きがある場面でもないし、歌があるわけでもない。しかし、19世紀イギリス上流婦人の衣装を身につけた支配階級の夫人 (ロンドン大学出のエマが演じる) が完璧に美しいイギリス英語で話し、片言の英語と広東語の中国人女中と勘違いの会話を交わしているおかしさは誤解の喜劇の典型として成功した場面になっている。

(8) サンスイ女 (1887年)

サンスイ女という名前は、彼女達の出身地、広東州、貴州省東部、三穂県の場所名から来ている。彼女達は1820年代にシンガポールに到着した独身の移民達。彼女達のトレードマークである赤い帽子を身につけて、シンガポールの初期発展の時期に身体をはった重労働（スズ鉱山、ゴム栽培地、建築現場、そして女中）に従事した⁽³¹⁾。

次の場面はラッフルズ・ホテルを建てているサンスイ女達。

[セリーナは棹にレンガの入った2つの籠をぶらさげ登場。彼女は休むために止まる。]

S：わー、疲れた！ シンガポールに来るといい生活ができるというわ。それで毎日コツコツと働く。ここに来ると女は美しくなるという。来てから毎日働きづめで、顔中セメントよ。美しい？

[パム登場し、彼女と休みをとる。]

S：来週お金を家を送らねば。

P：私も家にお金送る。

[エマがエッフェルタワーの帽子をかぶって登場。]

P：帽子は四角いのだと何度言ったらいいの？

E：これはエッフェルタワーよ。

P：何のために帽子をかぶっているの。

E：私は靈感ひらめきのためにかぶっているの。今度このような建物を建てるわ。

P：赤い帽子はとてもよいのよ。帽子がなければ私の顔は黒く黒くなるわ。

S：(注意深く見て、エマのエッフェルタワーの帽子をとり) こんなもの脱ぎなさい。

この後、サンスイ女独特の赤い帽子をたためないエマのためにセリーナとパムが籠から赤い布切れを取り出し、「最初に床の上に赤い布切れをおいてね」と、たたみ方を教える。

S：私たちは新しい市を建てる重要な仕事をしている。

P：いつかこのラッフルズ・ホテルはきっと美しくなるわ。

S：もちろん、サンスイ女が建てたこのホテルは美しいわ。

[歌] Verse：朝早く私たちはレンガを置き始める。

そしてセメントがすぐくっつくようにする。

太陽はとても暑く他の誰でも気を失う。

しかし私たちの赤い帽子は太陽と雨から守ってくれる。

建物はだんだん高くなり建てるのがより難しくなる。

一步毎に私たちの仕事は完成する。

肩の上の重みは1、2トンのような感じ。

一日中激しく働き楽しみは全くない。

Chorus：私はあなたのサンスイ女。あなたの基礎をたてる、

あなたの足の下のすべての床を、毎晩眠る家を建てる、サンスイ女。

私の貢献を忘れないで。何をすべきか言わないで。

私がやりとげるわ。あなたは私が泣くのを決して見ないでしょう。
私はサンスイ女。

(9) インド人の男 (1850年代)

ホッサンは彼の去勢牛を引っ張っているインド人として登場。

H：なぜシンガポールに来たか言わせてください。故郷のインドではとても貧しい。妻と私は何ももってなかった。唯一妻がもっていた多くのサリー（北インドの婦人が腰から肩に巻き、余った部分を頭にかぶる長い綿〔絹〕布）を売っていくらか金を稼ごうと言ったが、「どうか私のサリーを売らないで」と彼女は言った。金を稼ぐために、働くためにシンガポールにむりやり来させられた。しかしシンガポールを好きです。ボスは私を気にしてくれる。彼は私が健康なように気をつけてくれる。彼は多くのレンガをもって、毎朝早くから夜の時間まで、多くの階段をのぼったり降りたりさせます。彼は私をあちこち、前後左右に早く歩かせます。それは私の心臓血管を助けてくれる。労働は私をすんなり、ほっそり、都会風にします。私はその言葉が好きです。ボスは私たちの世話をします。2平方メートルの部屋で、彼は600人の人を眠らせる。そこで私は孤独にならない。私たちは身を寄せ合い、暖かくなって眠ります。セラングーン・ロード (Serangoon Road) で、友人に会い、私たちは食べ、話し、歌い、ダンスもする。私たちは友好的な人種なのです。

妻をインドに残して貧しいインド人がシンガポールに仕事を求めて来た事情を説明し、単純作業の重労働で搾取されていると示す。ボスに言われて、健康、都会的というが、実は不健康な生活を送っているインド人が示され、そんなインド人を元気づけてくれるインド人街があることを示す。

(10) シン・シティ (1920-30年代)

シンガポールはアヘン巢窟、賭博場、売春宿の罪悪の町である。Singapore にかけて罪の都 (sin city：広東語で xin city)。だがその中で中国系女たちは自らは罪には関わらず、たくましく生き抜くと示す。

[アヘンの巢窟で男性美の若者達がクーリーの衣装を着てアヘンに酔っている。トゥア・チオ・スー (アヘン巢窟の経営者セリーナ) はその間に座っている。彼女は彼らに福建語で話す。トゥア・リュウ・スー (賭博場の経営者パム) と、ティア・ニ・スー (売春宿の経営者エマ) が到着。]

アヘン巢窟経営者は、「このような毒は私たちが飲むものじゃないよね。私は金をつくるのだ」という。各自、悪に染まらず堅実な経営をしていることを示す。最後に来た売春宿の経営者は店の名称の重要性を説く。

E：今はもう20世紀だから。モダンに。私たちは売春宿と呼ばないのよ。売春宿でなく Night Time U Come (夜の時間にあなたが来る)。

S：NTUC ですって？

E：NTUC では御婦人方が慰める。

P：ワー、すてきに聞こえるわ。

E：今では店の命名はとても重要よ。貧乏なクーリーは私たちの国を建てるのに一生懸命働くから彼らの福祉を面倒見なきゃ。必要なものを小さな金額で手にいれられるように。

P：少額なの？ あなたはすごい宝石を身につけているけど。

S：実はそれであなたたち2人を招んだの。競争が激しいから自分たちだけの商売はとても難しい。開店前にも、政府に保護のためのお金を払わなきゃならないし（営業許可）。店を開いた後で私たちは保護のために秘密組織に払う。

S：だから私たちは商売が大きければ大きいほどよいの。私たちは力を合わせるべきよ。

P：あなた（エマ）は快適なご婦人たちの部門（売春宿）、彼女（セリーナ）は（アヘン窟）煙の部門、私は賭博部門を管理するの。統一リゾートの開店。

E：人々は一度の滞在で3つの楽しみを得ることができる。

S：そうね。3人が一緒になれば、私たち自身の3人組秘密結社だわ。3人組中国人秘密結社。

[歌]

S：私たちの市はあらゆる種類のよいごみかすであふれている。

E：興奮があらゆるところにある。

P：すぐに私たちの財布はあらゆる種類のお金で破裂しそうになる。

DSD：[chorus] あなたはひっかかるでしょう。

このシンシティ（罪の都）にいらっしやい。すべてがとても簡単。

そんなに重労働は必要ない。ブーフーフー。

シンシティにいらっしやい。人生は薄っぺら。

あらゆる種類の葉をダメにする。ブーフー。

DSD：簡単ではないけど私はやるわ。なぜって私は彼らが必要だと知っているから。私は彼らが楽しい時間を過ごせるよう助けてあげたい。どうしてそれが犯罪なの？

[クーリー（LMG）がDSDに加わり歌い踊る。]

DSD：もし私がダンスすれば、ここではよいチャンスがあると知っている。

金持ちになり、罪の都を去る。それが私の追う夢。

簡単ではないけど私はやるわ。なぜって私は必要だと知っているから。

私は人々が時間を過ごせるよう助けてあげたい。どうしてそれが犯罪なの？

それでも私たちの夢を持ち続ける。

妻や子供が貪欲だと言っても、必要だと言ってくれ。

好きなように言ってくれ。私はよい生活を見つかけられると知っている。

このシンシティで。このシンシティで。このシンシティで。

[突然空襲のサイレンが鳴る。]

P：日本軍だわ。どこ？

E：イギリス軍はいるの？

S：イギリス人はいない。

P：大きな大砲や大きな銃はどこ？

E：皆海に向かってる。

S：しかし日本軍は背後からやってきている。(海からでなく背後からの日本の攻撃も歴史的事実)

全員：日本軍の旗が着陸。新しいシン (xin) シティだ。

1 幕終わり。休憩。

● 2 幕

(11) 日本による占領の終わり 1945 年

[牧歌的音楽。DSD は 3 人の神風日本軍のパイロット。彼らのパラシュートが木にひっかかっている
ので 3 人は宙吊りの状態で会話。セリーナはぐっすり眠っている。]

DSD の日本語で話している箇所を **知らねーよ** のように太字で示す。日本人英語の真似も () 内に説明。

J1：どうやってとれるんだよ。

J2：知らねーよ。

J1：畜生。

J2：助けて。

J2：助けてくれい。

J1：Help!

J2：Help!

J3：**五月蠅い**。シーツ。僕は眠ろうとしている (sureep 日本人の子音を入れる発音と r と l の混同を示す)。

J1&2：眠る (sureep) だって。

J2：こんな時どうして眠れる (sureep) んだ？

J1：パラシュートがかかっているのにお前は眠る (sureep) のか？

J3：rook (look の誤り)、ここに永久に引っかかかっていても気にしない。**神風**の飛行よりずっとよい。

J1&2：(憤慨する。) **馬鹿野郎**。

J1：なんて失礼な。名誉ある日本空軍の**神風**隊員だ。永久に不滅なのだ。天皇陛下に忠誠で勇敢だ。

J1&2：**万歳!**

J3：どうして忠誠といえるか？ **神風**の使命に失敗したのだ。飛行機から飛び出た。皆臆病ものだ。

J1：私は臆病でない。正しい目標に向かって飛んでいなかった。そこで私は早く飛び出たのだ。

J3：**そうですね**。お前ら 2 人は早く飛び出たのだ。

J2：見ないでくれ。私は戦争は信じない。平和主義者なのだ。

J3：**神風**平和主義者？

J1：お前は平和主義じゃない、感傷的なのだ！

J2：もう嫌だ。とても屈辱的だ。どうしてこんな風にぶら下がっているのだ？

J1&3：五月蠅い。

J1：帝国戦争の努力がこんなふうになったのを子供に記憶してもらいたくない。

J2：子供たちはこの戦争のことをたいして学ばないだろうという気がするね。

J1：私たちが勇敢で勇気があったと学んで欲しい。

J1&3：五月蠅い。

J2：私は下りなければならない。無理に締め付けられて wedgie (wedge：語末に無い母音を発音する傾向の日本人発音) 動けなくなっている。

J1&3：何？

J2：下着がくっついて (stucku 余計な母音 u が日本語英語)。

J1&3：アーソー。ソー。ソー。

J1：腹へった。飢え死にしそうだ。

J2：焼き鳥。

J1：すき焼き。

J2：照り焼き。

J1：刺身。

J1&2：マクドナルドだ。

J3：バナナをとりだし食べ始める。J1&2見る。

J3：アー美味しい。

J2：どこで手に入れたのだ？

J1：この野郎！ 3日間もこの果物を隠していたのか。私はこの軍隊発行の弁当箱をなめていたのに。そしてお前は切れ目なく果物の供給があったのだ。いくらか投げろ。

J3：しょうがねーな。1人に1つずつだ。

[J1、J2に2本のバナナを投げるが受けそこなう。]

J1：ヤダヤダ。私はバナナが欲しい。

J2：バナナ。

J3：五月蠅い。殺されるぞ。どこにいるか知らないんだから。

J1：ここは昭南島 (Singapore) だと思う。占領地域だ。

[飛行機が飛んできて、ビラを落とす。それぞれ一枚とって読む。]

全員：戦争は終わった。日本軍は降伏した。

J2：どうしてこんなことが。

J1：世界中の征服者だったのに。

J2：天皇のために戦ったのに。

J3：帰国できるということかな？

J1：恥さらし。

J3：恥だって？ 我々は**神風**の未熟者なのだ。（別の叫び声が入る。）

J2：天皇の期待に背いた。

J3：**日本、日本**、私は**日本**がないのを悲しむ。何という苦痛！

J1：どうやって帰国できるだろうか？

J2：この木の中にずっと放っておいてくれ。

J3：死ぬまで吊下がっているのが当然だ。

全員：[歌] **神風**パイロット。私たちは新しい侍。

神風パイロット。なぜ生きているのか。私たちは新しい明日に直面するだろう。

恥と悲しみを皆忘れよ。

苦痛を熱い酒で溺れさせよ。**神風**の**カラオケ**の時間だ。

[彼らはパラシュート袋から有線の金色のマイクを出し、コツコツと軽くたたいて試し始める。]

J1：**ちょっと待って**。テスト中、テスト中。

[歌は終わるが彼らはまだぶら下がっている、皆助けを求め叫びは始める。]

あまりにも見事な日本語を分かってもらうため、このエピソードだけはほぼ完全に引用し [注] に英語版台本を付け加える⁽³²⁾。他のマレー語、タミール語、中国語、イギリス人英語なども見事で観客が大喜びするわけもよく理解できる。しかし観客は宙吊りの装置に感心したようである。2幕開幕の印象的な場面であるのも事実である。

(12) その間にほかの場所で

[1947年独立運動をするマハトマ・ガンジー（ホッサン）登場。]

ドティ（dhoti = インド式男子用腰布）を身につけ杖を使い、非常にゆっくりと歩く。故郷から百マイル離れてインドをイギリス植民地の主人から自由にするため歩いている。抑圧的な政府を投げ捨て、シンガポールの人々も正当な自分のものを要求するようにと説く。毛沢東（セリーナ）は何も言わないで早く行進しながら登場し、シンガポールでガンジーに追いつく。「中国人が偉大だ。暴力の革命が答えとなると信じている」と毛沢東は主張し小さな赤い本にその主張を書き付ける。無抵抗のガンジーと対比し、毛沢東の暴力の革命と共産主義を風刺。

(13) 伝道団（1949年）

[パムは修道院長として登場。]

P：[歌] どうやってマリアのような難問を解決できるだろうか？

どうして雲を捕まえそれをピンで押さえつけておける？ どんな言葉でマリアを言い表わせるでしょう？

気まぐれで無責任な人！ 神出鬼没の鬼火！道化！（*The Sound of Music* “Maria”⁽³³⁾）

どうしたらいいだろう？ どうしたらいいだろう？

P：極東の遠く離れたこの地はアイルランド人の尼僧には容易ではない。私は1954年から2年間ここにいます。この場所はただもう這うように進んでいる。一言も英語を話さない現地人の若い娘たちに、どう歩くか教え、どう話すかどう座るかどう食べるかどう考えるかを教えるのが仕事だと思うが。

[エマ（別の尼僧）が登場。]

P：アー、シスター・パッティが来たわ。間違いなくマリアを探しているのね。アイ、シスター。

E：院長様。

P：娘たちはどうしていますか？

E：あの、ほんのちょっとした問題があります。

P：どういう意味が分かるわ。ここの娘は懐かしい故郷アイルランドの善良な娘たちのようじゃないのです。マリアは？ 今度は何をしているの？

尼僧セリーナがマリア（ホッサン）をつれてくる。マリアは修道院の制服をむりやり着せられているマレー人の村娘である。

S：マリア！ 修道院長さまの前にまっすぐ立ちなさい。

P：マリア！ あなたは修道院の子です。そして誰でも修道院の子は清らかだと知っています。

P：そして貞淑だと。

P：そして処女らしい。[沈黙。]

E：そしてあなたは男の子と一切関係をもつてはいけないのよ。

H：院長さま。男の子達が来たのは私の罪ですか？ あなた方は皆いつも私を叱り、勉強を強制します。

S：あなたのためになるからよ。

H：私自身のためですって。勉強しすぎて、誰も私と結婚しなくなかったら、その時私はどうなるの？ ここへ来て尼になるの。嫌だわ。

P：尼になるのがどこがいけないの？

H：太陽が暑いのにそんなものかぶって。死ぬわ。この制服も我慢できないわ。

E：どんなふうにあなたの人生を生きたいの？

H：すべての洋服を剥ぎ取り、エスプラネードに行き太陽の中を走りまわりたいの。蜘蛛を探すとか海で泳ぐとか男の子と草の上で転がり回るとか普通のことをしたい。[シスターたちはショックをうける。]

S：静かに。これは我慢できないわ。まっすぐ立ち、いつも鼻を少し空にむけなさい。でも胸はひっこめて。[イギリス人の姿勢への皮肉。]

E：(非常に厚い辞書をホッサンの頭に載せ) この辞書があなたの頭に綴りを入れてくれるでしょう。

P：さあ正しい発音です。私の後に繰り返して。Betty Botter bought some butter ...

H：Bitty bottle bot some butta.

[というように何行か練習用詩句を言われてもホッサンは間違いの発音を続ける。]

H：だけど私はパン屋になりたくない。

S：侮辱だわ！

[ホッサンは辞書を頭に載せ早口言葉をひどくまちがって繰り返して歩く。]

DSD：[歌] 私たちはアイルランドから来たアイルランドの尼僧。

良い知らせ（福音）を遠くから持ってくる。おてんばな習慣に私たちは我慢できない。

悪い少女は新しい4つ葉のクローバーに変わるでしょう。

私たちは伝道団。あなたたちを救いにやってきた。

辞書を取り出し、どうかP（= please）とQ（= Thank you）に気をつけてね。

H：だけど私は綴りが嫌い。

DSD：私たちは少女たちに清潔質素であれと教える。学校を建てるでしょう。馬鹿には我慢できない。少女たちは十代で妊娠してはいけない。もし少年に触れるなら、9カ月になるのよ。

H：choy!

[ホッサンは走り逃げまわりリバーダンスを踊り始める。尼僧たち（女性ダンサー）は加わる。男性美の若者たちも尼修練者として入ってきて同様にダンスに加わる。男性美の若者とホッサンがまたダンスを始めるリフレーン。場面の終わり。]

この場面は、修道院学校による、シンガポールへのキリスト教伝道の歴史を示す。修道院生活とはずれたいたずらで野生児の女の子を、『サウンド・オブ・ミュージック』のマリアと見立てて、喜劇を作る。音楽がオリジナルでないにしても、やはり魅力的で面白い場面になっている。一方で、アイルランド修道院なのでリバーダンスを用いて、男女大勢が踊るダンス場面の見せ場になっている。

(14) カンプン・ブルース (The Kampung Blues)

シンガポールの3つの主要文化を体現する女性達の仲のよい会話。しかし村を捨てアパートに孤立させられる近代化により交流は失われようとしている。再開発して近代的アパートや建物を建てるために、政府は村の小屋を売れと要求し、カンプン（村）を取り壊しカンプン精神や交流も壊す。この中国人、マレー人、インド人の老女皆がそれを嫌がっている。カンプンにある優しい思いやりの心と、人種を超えたシンガポール人としてのつながりが都会化と開発で失われる。

[70代の老婦人たちである中国人（セリーナ）とマレー人（パム）とインド人（エマ）が同じカンプンに住んでいる。彼らはアヤム（Ayam [インドネシア料理] チキン）・ゴレンを食べている。]

P：アーエム、あなたのアヤム・ゴレンはほんとうに最高だわ。

S：とてもおいしくしているのはサンバル（sambal = トウガラシ・トマト・塩をベースに、香辛料・調味野菜・ココナツ粉・塩辛などを合わせてすりつぶし、ペースト状にしたもので、マレーシア・インドネシアの調味料・薬味）だわ。

P：いいえ、あなたのチキンよ。

S：あんたのサンバルよ。

E：チキンをととてもおいしくしているのは私の指だと思う。（皆笑う。）エー、あんたたち2人はここ

にもっとしょっちゅう来て食べないとね。大勢で食べるとおいしいから。

E：まあ、私たちは1日おきに来ているわ。

P：もう恥ずかしい。毎日あなたの料理を食べている。だけどあなたの料理は最高。

S：恥ずかしがる人をもつのが隣人よ。私たちはこのキャンプに何年も暮らしているわ。ほとんど姉妹だわ。

P：私たちのような友人は見つけ難いわ。

E：従姉が先月の人種暴動は本当にひどかったと言ってるわ。誰もが通りで喧嘩したの。

S：でも今ではあらゆることが変わっているわ。人々が私たちのキャンプを取り壊したいんですって。

P：ばかな。このキャンプ精神はとても重要。すべての友人はここにいるし、そうなるとアーエムのチキン・ゴレンをどうして食べることができるでしょう？

S：私もまた高い建物に住みたくない。そうなるとココナツの木の下で昼寝できなくなるわ。

E：私は毎朝朝食後隣人たちとゴシップを話せないと寂しいでしょう。

E：一杯のコーヒーで……次々に家から家へ行き、……一時間以内に誰が何をしているか知ることができる。……それが交際よね。

E：心配しないで、アーエム。私たちはただ留まりましょう。引越ししない。

[歌] 朝目覚めると何を見たか？

また紙が来て私をいじめる。

私が金持になるよう、私の家を売りなさいという紙だ。

どうして店の女主人 (machik：老板娘) は苦しまなければならないか。

彼らが1街区 (en bloc itch) の痒さをひっかくことができるように。

S：私はここに一生涯住んできた。どうして引越ししなければならないのか？

彼らは私の家のドアをバンバン叩き、なぜ反対なのか尋ねる。そんなことを気にかけるには年寄りすぎる。どれだけ金をもらえても、私は身体が痛む。それでも彼らは私の心を痛める。

全員 [Chorus]：私たちは一街区 (ブロック)・ブルースをもつ。

彼らは私たちを家から追い出している。わずかなけがらわしい金で。

私たちはノー、ノー、ノーと言い続ける。誰か私たちを助けこのブロック・ブルースを止めさせてくれない？

E：この争いは嫌い。私たちの近所をずたずたに破壊するのはまったく意味がない。

[DSD は歌いながら退場。]

(15) 独立のための装い

[男性美の若者は白服を着た男たちとして登場。]

LMG：[歌] 我々は白服の男。ものごとを正しくすることに乾杯。

白服の男！ 白服の男！ 他のどんな色もこれほどかっこよくない。

[歌] 白服の男！ 白服の男！

白服の男は支配するために来た。白は我々が全く新しく始めようとしていると示す。

白はスレートがすっかり綺麗にぬぐい去られていると示す。

この国は他のどんな色も必要ない。私たちは新しい男だ。

私たちは白服の新しい男！ 私たちは白服の新しい男！

私たちは新しい白服の男！ 私たちは白服の男！ 白服の新しい男！

この場面は人民行動党を率いて、マレーシアからシンガポール分離独立を導いた初代首相リー・クアンユー⁽³⁴⁾の思想、政治的態度、個人的事情を賞賛したり、からかったりするもので、次の「独立を求める叫び」の場面の前置きといえる。1965年にマレーシア連邦から追放される形で都市国家として分離独立したシンガポールだが、イギリス植民地を脱したシンガポールが生き残るのにマレーシアとの合併だけが必要と考えていたリー・クアンユーは、シンガポール独立を宣言するテレビ中継放映で涙を流した。こうした事情もこの場面では語られている。

「白服の男」は、この場の中でとても勇敢、利巧、がっしりしていてハンサム、優しい、カリスマがあると「べた惚れ」に賞賛されるリー・クアンユーと人民行動党を指すのであろう。彼のかっこよさと新機軸に対するお世辞であろう。しかし彼の開発独裁体制への批判は、「いつも私たちに何をすべきか言ってくれる」という台詞にいくらか示されていても独裁である以上不可能なのであろう。その独裁制ゆえに繁栄したシンガポールでは批判は言えないのかもしれない。

彼が独立宣言をした時代に合わせ音楽は60年代のビートルズ風に歌われる。幾つもの変形 (verse) をつけ、長い歌として歌われ、李を賞賛する DSD と白服の男たち (男性美の若者たち)、さらに楽器だけの演奏も加わり感動を呼ぼうとする場面となる。

(16) 独立を求める叫び

[ホッサンがミス・シンガポールとして扮装して入ってくる。]

H：ミス・マレーシア (Miss Malaysia) のページェントから放り出されたの。口惜しいわ。泣かないようにしよう。彼らは私に手紙をよこした。「ミス・シンガポール、現在の政治的状况にかんがみて、あなたは私たちのページェントに歓迎されません。小さな島でのあなたの幸運を祈ります」。どうやって私は美の女王になれるだろう。なぜって私はシンガポールの女の子になりたい。美の女王として私は喜ぶでしょう。私のチョンサン (cheonsam (長衫) = cheon sum : 襟が高く、スカートの片側にスリットのある中国服) があまりにきついとしても。

[ホッサンは舞台ですすり泣く。]

[ミス・ジャラン・ベサー (セリーナ)、ミス・ジュロン・ケチル (エマ)、ミス・アリユニード (パム) が登場。]

P：ほら、いたわ。

E：私たちはあなたを探しまわったのよ。

S：オーノー、泣いていたのね。泣かないで。

H：私は今でも女王になれる？ つまり美の女王に。

E：あなたはミス・マレーシアのページェントには出ることはできないけど、今日午後遅くミス・シンガポールのページェントには出られるの。

H：できるって？ でも私が唯一の候補者だわ。

S：いいえ、ちがうわ。私を見て（サッシュをぐるっと回して見せる）。私はミス・ジャラン・ベサー（アラブ・イスラム教地区の通り名）よ。

P：そして私も（サッシュをぐるっと回して）。ミス・ジュロン・ケチル。

E：そして私も（サッシュをぐるっと回して）。ミス・アリユニード。

P：エー、あなたはセラングーン・ガーデンにいたると思っていた。

E：ヤー、だけど委員会はセラングーン・ガーデンは再区画されるというの。私は今やアリユニードの一部なの。

全員：オー。

H：じゃ私は何？ 誰になるの？

全員：（ホッサンのサッシュを回して）ミス・ブギス街よ。

H：オー私はミス・ブギス街になれてとても幸福。世界中の船員たちが私の美を語るでしょう。彼らは私について映画やミュージカルを作るでしょう。

E：私は大会についてちょっと心配だわ。

H：心配しないで。私は経験がある。練習を助けてあげるわ。

P：本当？ 練習しましょうよ。尋ねて私に答えさせて。

H：こんばんは、ご婦人方、ミス・ジャラン・ベサー。シンガポールの首相になったら何をしたいですか？

S：もし私が首相だったら、それじゃ、もし一日のどんな時でも夜でも昼でも、どんな場所でも、どんな通りでも、あなたが望む限り、あなたは食べ物を見つける。私のもとでは、シンガポールは食物の共和国になるでしょう。

H：よろしい。そしてあなたはどうですか？ ミス・ジュロン・ケチル？

P：ウーン、もし私が首相なら私は経済が二桁の成長をし、強いインフラを整備し、国際的投資を呼びこみ、人々のために補助金による住居を建て、一流の医療保障をし、木々や庭を作り、自由な言論を保証します。

H：オー、ミス・アリユニード。（彼女は反応しない）ミス・アリユニード？ ミス・アリユニード？

E：おー、すみません。私はいつもセラングーン・ガーデンだったもので。

E：エー、もし私が首相なら。私はシンガポールを一つの統一された国民にします、どんな民族、言語、宗教にもかかわらずに。正義と平等に基づいた民主的な社会を作るために、私たちの国に幸福、繁栄、そして進歩をなすとげるために。

全員：ヤー、すごい。

S：私は歴史を作りたい。

H：ジョホールからキナバルまでの娘たち。そして西マレーシアのあらゆる島の娘たちもまた。
E：彼らはライオン・シティの私たちを見下す。なぜって彼らは自分がとても綺麗だと思うから。
S：何が起ころうとも、私たちは決してあきらめない。幸福の杯を満たすのに水以上のものがある。
P：彼らがゴム、やし油、スズ鉱山をもっているからって気にしない。彼らのファッションセンスがいま一つだから。

全員 [Chorus]：そうです、私はシンガポールの娘になりたい。

私の新しい国のために私は戦いを続けるだろう。

私はシンガポールの娘になりたい。

私たちは小さいかもしれないが明るく輝いている。とても明るく。

H：もしも私がここを去るなら、私は悲しくなるだろう。

E：というのはここは安全な場所で犯罪は少なくなっている。

P：そして人生が本当に忙しいとしても、

S：2桁の成長は決して容易ではない。

全員：ここに留まる多くの理由がある。

Laksa and satay, rojak and mee bak chor (中国語、マレー語、タミール語によるリフレイン)

あなたは知っていて、私はその変化を知っている。私が幸福になるまで私を一杯にする。

[男性美の若者は他の美の女王(女性ダンサー達)とともに登場。彼らはDSDに加わる。]

全員 [Chorus]：そうです、私はシンガポール娘になりたい。

私の新しい国のために私はシンガポールの娘であることを誇りに思う。

私は遠くまで飛んでいく。

[幕が下りる。おじぎ。]

7. おわりに

カーテン・コールでDSDが「シンガプーラ」の歌を「シンガプーラ、オー、シンガプーラ。美しい花があなたと私のために咲いている。平和と(エマ)、進歩と(パム)、繁栄のために(セリーナ)」と歌う。終わると、指揮者エレインと楽隊のメンバーを歌のリズムとメロディに合わせて各人の名前を紹介する。するとサング・ニラ・ウマタの扮装でホッサンが男性美の若者達と共に登場する。

全員：[歌]これが私の国。これが私の旗。これが私の未来。これが私の人生。

これが私の家族、これが友人たち。私たちはシンガポール。シンガポール人。

私たちはシンガポール。シンガポール人。

私たちはシンガポール。シンガポール人。

私たちはシンガポール。シンガポール人。

[ホッサンと男性美の若者がDSDのダンスに加わる。]

最後にアンコールとしてこのように国民の祝日のパレードの歌(チャン作曲の歌)を皆で歌い、観

客も会場入り口で観客全員に配られたシンガポールのミニ国旗を振って、観客も一緒に合唱して終わる。チケットは売り切れで、満員の観客を得て DSD は今では地域のスーパースターである⁽³⁵⁾。

元来、キャバレーのショーだったということが明らかなエピソードの連続で、2時間半の定番の公演となっているが、ミュージカルとしてのストーリーの完成度は低い。シンガポールの歴史を太古から独立まで辿ることで、筋の一貫性をもたらしていると言えるが、それよりもシンガポールの多民族、多言語、多文化を語ることで、シンガポール全体を語っているのが興味深い。人口の主流を占める中国人にしても、文化的には多種多様な中国人がいる。海峡中国人、肉体労働を厭わないサンスイ女。アヘン窟、売春宿、賭博上を経営する商売上手な華僑、あるいは英語を話しセレブ的なプラナカン・レディ、一方で現代には派手で挑発的な恰好で白人を追いかけるだけの浅薄な娘達がいる。歴史という名目で時代順にエピソードは語られるが、ラッフルズ上陸の折に現代中国人娘アー・リアンやサロン・パーティー・ガールが登場するように、時代錯誤的に語られ、笑いを呼ぶ。また女性達の友情と協力が、最初の DSD の歌に始まり、サンスイ女でも、3人の犯罪的経営者でも、さらにはインド、マレー、中国の人種文化を超えたカンペン・ブルースを歌う女達でも目立つ特徴である。こうした強い女性達がいる、シンガポールという国が成り立っているのだと認識させられる。女性が主人公のミュージカルゆえ、そう感じたのであって、実は女性だけでなく元気でたくましいシンガポールの人々全体を現しているのであろう。

しかも最後はミス・シンガポールを賞賛する華やかなページェントとシンガポールを愛すると歌う観客との愛国的な大合唱で終わり、シンガポール人も、観光客も喜びと感動を与えられて家路につくのである。

何より主演のセリーナを始めとする三人娘とホッサンのコメディアンとしての優れた演技により、常に劇場には笑いがうずまき、楽しい公演であった。

音楽的には様々な曲種を使い、マーチ、ブルース、マレー風音楽など、名曲とは言えなくても、一晚を楽しませるオリジナルな曲である。あるいは『サウンド・オブ・ミュージック』の歌やアイリッシュ・ダンスなどを利用して、それもこのショーの魅力を高めている。最後に作品の作曲者であり、このミュージカル上演時のオーケストラの指揮者であるエレイン・チャンの作曲になる国民の祝日のパレード曲がまとめあげていて、シンガポールのミュージカルだという主張を明らかにしていた。

華やかな衣装の数々は、華やかというだけでなくシンガポール航空の女性乗務員の制服である生地のマレー風バティックであり、マレー式衣装ケバヤのものであり、靴もマレー風伝統のカスト・マネクをハイヒールにしたもの、それに中国服の特徴を加えているといった多文化をすでに示していることにも気づかされ、新しい知識を得ることができた。だが、一方では、このショーの歴史は独立時1969年で終わっているものの、ショーには最近のシンガポールの政治や社会風刺が盛んに挿入されたらしいのだが、スクリプトを読んでも私は残念ながら風刺を十分に理解できなかった。

時代錯誤な人物や事柄の挿入により、当然不正確な歴史とも批判されるが、シンガポールをよく知らない私にとっては、非常に啓発的なミュージカルであった。

注

- [1] 博物館でもこの関連から *Dim Sum Dollies Day Out!* というショウを2008年11月29日に午後2回公演（短縮版）で開催している。主として子供や学生の観客をターゲットにしているようである。シンガポールの文化と遺産のよい紹介になると案内。
- [2] trevvy.com/scoops/article.php
- [3] jeremyew.com/2007/07/09/
- [4] 普通のキャンプ、野営地の意味のほか、同性愛男性の女装を意味する名詞（ホモ：ホモの誇張された女性的な身振り）、形容詞（気取った：めめしい：おかしなほど誇張した同性愛の）、動詞（（わざと）気取ってオーバーに、ホモ的にふるまう [行なう]）があり、それをかけて笑いをとっている。辞書は明示しない限り、『リーダーズ英和辞典』に従う。なお、この箇所での“can”の使用は can がシングリッシュでひんぱんに使われ、しかも誤用されているので、ここはアイロニーでもある。たとえば can! は sure! の意味で、さらに熱狂、強調、疑問文を示すなど、英語の用法からは逸脱している。
- [5] 鄭和（ていわ：c. 1371-c. 1433）中国明代初期の大航海者。本姓は馬、雲南出身のイスラム教徒で、宦官として永楽帝（Yung-lo）に仕えた。1405-33年の29年間に、東南アジア諸国からインド・セイロンさらにアラビア半島からアフリカ東岸におよぶ計7回の南海遠征を行なって中国皇帝の威を示し、中国人の知識を拡大させた。
- [6] wayang, wajang：音楽に合わせて人形または人間が伝説・説話などを演じるインドネシア（特にジャヴァ島）の影絵芝居。ジャヴァ語では = shadow。
- [7] これは2007年国民の祝日のパレードの風刺である。演劇批評：署名 Tim (www.trevvy.com/scoops/article.php)。
- [8] 日本の店で小籠包と呼ばれるものに近い。スープの団子とも言われるが、上海や無錫（江蘇省南東部）など中国東部の baozi である。伝統的に竹の蒸し籠に入れられて供される。上海やその近辺では小籠饅頭と呼ばれる。南部では饅頭は中に詰め物がある場合もあるが、中国北部では詰め物なし。無錫のはより甘く皮がより薄く、より汁気が多い。
- [9] Crystal Jade：シンガポール随一の中華料理店。
- [10] = Dan Tat（蛋撻）：底は薄片状のさくさくした膨れた生地か、またはクッキーの生地で、中に卵のカスタードの詰め物をし、それからオープンで焼いてある。現在ではタロやコーヒーの風味香りがつけてある。ここまでは Wikipedia の点心（dim sum）の項に掲載の dan tat の説明の抄訳である。明木茂夫氏によれば、中国本来の点心でなくおそらく欧風の egg tart をシンガポールの中国料理店で出すようになったものであろうとのこと。これは日本の店で点心として供されていない。
- [11] tart おそらく古仏語の tarte に由来。“女”の意は sweetheart の略または“おいしい食べ物”の意から（⇒ cake, pie 1）
- [12] 赤い叉焼（豚肉）を入れた饅頭。広東風の赤い叉焼を入れた最も人気ある饅頭。白くフワツとするよう蒸されたり、滑らかな金茶色の皮になるよう軽く砂糖の艶出しをつけてオープンで焼かれる（Wikipedia から抄訳）。中身が叉焼であることがポイントで次の Dua Bao と区別される。char siew bao と台本では綴られるが、北京語綴りでは char siu baau である。
- [13] Dua Bao のほうが日本でいう肉饅にあたる。玉葱、タケノコ他の野菜、豚肉入りの蒸し饅頭で、赤い叉焼入り肉饅より大きい。
- [14] beefcake：俗語。男性美を強調したヌード写真。ここでは男性美をもつ6人の若者達を呼んでいる。彼ら6人の若者は女性数名のダンサーと共に場面によってあらゆる役柄で脇役をつとめる。

- [15] 英語化した呼称は Lotus leaf rice : 一種のもち米の団子が三角形か長方形になるようハスの葉に包まれている。米には卵黄、乾燥帆立貝、きのこ、水煮栗と豚肉と鶏肉が入っている。これらは米と一緒に蒸され、葉は食べられないが、蒸す間にハスの風味がつけられる。日本で中華肉入ちまきと呼ぶものに似ている。セリーナは糯米籬 (Loh Mai Guys) と呼びかけるが、単に点心の名称だけでなく、英語の guys (男の子達、若者達) という意味とかけてここでは若者よ、と呼びかけている。
- [16] 伝説によれば、パレンバング王子 Sang Nila Utama または Sri Tri Buana が、航海の末マセク島 (シンガポール) を発見し建国した。マレーの年鑑によれば、彼は島を 1299 年から 1347 年まで支配した。ライオンを見つけ名前が singa と聞いて、島をライオンの市 (sinngapura) と名づけた。現実にはライオンではなく虎だったろう。上陸しようとして嵐で船が沈むのを避けるため冠を海へ投げ捨てた (Wikipedia シンガポールの歴史辞典)。
- [17] シチを演じるパムのマレー・アクセントが素晴らしい。(www.trevvy.com/scoops/article.php)
- [18] star anise : 八角茴香 (ういきょう)、大茴香、八角、スターアニス (トウシキミ Illicium verum) の果実から採れる香辛料で、中国料理の香味付けに用いられる。この Star Anise の扮装は唯一良くないと批評されている。
- [19] 左手の、左ききではなく、right hand man が「腹心の人物、右の片腕となる人」の意味であるのを踏まえて、船長を中に左手にいる人物で、左の片腕の意味であろう。Left hand = 「誠意の疑わしい、裏にも意味のある、額面どおりに受け取れない (世辞・好意・人など)」ではないと思われる。
- [20] parapara techno music と台本には書かれるが、辞書にはなく techno-pop と英語では言うようだ。techno-pop テクノポップ=シンセサイザーなどのコンピューター機器を用いたポップミュージック。
- [21] 15世紀にイスラム信者の中国人チョン・ホー提督がマラッカを訪問した時以来中国との密接な関係が生じた。伝統的説明によれば、1459年に中国皇帝はマラッカのスルタンの貢物に喜んだ印として、王女ハン・リ・ボをスルタンに送った。王族と王女に付き添った召使は最初ブキト・シナに定着したが、やがて海峡生まれの中国人、つまりプラナカンと知られるようになった。プラナカンは宗教、名前、民族的アイデンティティは中国の伝統を守り、中国由来の伝統的な新年、陰暦やランタン祭を維持したが、マレー文化と部分的に同化し、食物、衣装、言葉はマレー文化を取り入れ、独特の文化と食べ物を発達させた。マレーの影響で、チキン・ドライ・カレーやノーニャ式の揚げ鶏などのマレーの香辛料を使った独特のノーニャ・クイジーネが発展した。またノーニャはバジュ・ケバーヤ (baju kebaya) と呼ばれるマレー・ドレスと欧州的なガラスのビーズの花模様の軽い靴、カースト・マネク (kasut Manek) を好んで身につける。プラナカン家族は地元のイスラム教徒のマレー人 (他宗教との結婚を禁じられている) と結婚せず、結婚相手を見つけるため娘や息子を中国に送る。人種的には純粹の中国人であるものの、植民地支配者の文化、ポルトガル、オランダ、イギリスの影響をうけ、また地元のマレー、インドネシアの影響をうけ、プラナカンは独特の文化を発達させた。しかし現在、民族的に中国人と区分けされたプラナカンは第2外国語としてマレー語でなく北京語を正式に教授され中国文化に戻り、マレーシアではバハサ・マレー語の標準化によりプラナカン文化の特徴は消失しつつある。(Wikipedia)
- [22] 髪の毛を派手な鮮やかな色に染め、ヒップ・ホップ文化を模倣した流行遅れの服を着て、日本娘のようにふさふさとした切り下げ前髪でまっすぐ直毛にしている。写真を撮るのが好きで (プリクラ)、目を大きくし、頬を膨らませた日本娘のやり方を真似する。
Ah Lian 文化は無宗教の中国系学校で主流である。下品な言葉の頻繁な使用と徒党を組んだ外観が典型的。Singlish, Manglish Chinese あるいは中国語に関係する方言の一種の混合を喋る。英語のフレーズを中国語の文法で使うのが一般的。(Wikipedia 抄訳)
- [23] Ang Mo (紅毛) あるいは時には Ang mo kow (red-haired monkeys 赤い毛の猿) と言われ、ang moh

とも綴る。これは人種偏見的な形容辞で、福建語の“Min Nan”（マレーシアやシンガポールの白人に言及する）に語源がある。文字通りには赤い毛を意味するが、現在では少数派である大部分の白人の間には、強い不名誉、恥辱感をあたえる。その言葉は悪魔という意味、つまり広東語の“gweilo”（外国人の悪魔）という意味で使われるからである。（Wikipedia）

[24] （マレーシアの）小村落、部落、カンポン。

[25] sarong：マレー人・ジャワ人などが着用する腰布。その布地。Malay = sheath.

[26] 原文はSQで、シンガポール航空（Singapore Airlines, 本社 Paya Lebar）の国際略称SQを示す。ここではシンガポール航空の女性乗務員が機内で着用する制服のパティック生地と同じ（か、または模倣した）柄の生地を買ったのであろう。

[27] ang mo kow の意味を踏まえている。red-haired monkey 紅毛の猿。なお、verse と chorus は Musical の用語。verse は詩、韻文という意味だがミュージカルでセリフと歌をつなぐ役目をする説明的な部分、メロディは地味で歌詞に重点がある。chorus は refrain（くり返し）とも呼ばれ、演歌のサビ部分でありメロディが覚えやすく、歌らしい部分。しかし、歌詞は単純な詩となっている。

[28] “Sarong party Girl” Aitchison の小説以来、白人の男を恋するシンガポール女性、しかも身を投げ出す侮蔑的な意味をもつ。

完全に東洋系のシンガポールの女が挑発的な服装と行動をして専ら白人の男を好み、白人とだけ好んでデートする。ピンカートン症候群の変形と見られる。1994年発刊の Jim Aitchison の *Sarong Party Girl* というユーモラスな小説で有名に。彼はその小説でSPGとそれに関連するシンガポール文化を風刺的に描いている。その言葉の起源は1940-50年代の未だイギリスが支配していた時代の無害な語から来ている。当時、イギリス人はイギリス人だけで階級に応じて社交をしていた。だが時に、イギリス人のホストが特別なシンガポールの人々を招くことがあった。サロン・パーティと言う語がイギリス人と地元のシンガポール人の社交を指すようになった。その当時マレー式正装で今も着用されるサロン（一種の巻きスカート）がシンガポール人男女に人気があった。典型的な Sarong Party Girl は、極めて日焼けした肌で偽の外国語なまりで話し、挑発的なドレスを着ている。元来はビキニかタンク・トップとサロンの組み合わせだったが、今では変化している。国籍喪失の白人に人気のあるナイト・クラブや夜の歓楽場に彼らと出会い関係をもつために頻繁に出入りする。Sarong Party Girl は特定の夜の歓楽場をうろつくと有名で、金目当てで夫を捕まえようとするアジア人の誘惑的な魔女として描かれる（Saint Jack という映画参照）。こうした感覚は1970年代の退廃したシンガポールのイメージに多く貢献した。（Wikipedia 抄訳）

[29] 1904年になって1人乗りが導入されるまで2人乗りであった。始めは貴族階級の私有の乗り物であったが、後には西洋人にもシンガポール人にも、リキシャは通勤に、子供を学校に運ぶのに、社交的集まりのために上流にも下層にも使われた。乗客の他にリキシャは品物、商品、肥料、死体さえも運んだ。戦後交通事故頻発のため禁止された。今日では、人力車という日本語と違い、アジアでは人力ではなく、座席のある乗り物を3輪の自転車やバイクが引くものにとって替われ、ごく少数の観光客相手のものとして残っている。参考：www.imagesofasia.com/html/singapore/rickshaw-puller.html 及び [rickshaw infopedia.n.l.sg/articles/SIP_947_2005_01/25.html](http://rickshaw.infopedia.n.l.sg/articles/SIP_947_2005_01/25.html) (Tan, Bonny 著, 1999.12.10執筆, National Library Board Singapore©) なお現代の駐車場管理人 pontianak はDSDの諷刺の対象で、以前のDSDのショウにも扱われ、YouTubeでみることができる。

[30] Tui はネット辞書によれば、無理にぐいぐい押しすま、退廃する、豚のもも肉を塩付けにしたもの、後退、という意味があるが、どうして中国人女中が怒ったのか不明。

[31] Samsui Women：彼女達の出身地サンスイ地域では、女性は子供を育て、なお家計費を稼ぐ責任をもっていた。このつらい結婚に入るよりはと、一団のサンスイ女達は独身の自由を選び、シンガポールに旅して

きたのだった。サンスイ女はもっと金を儲ける悪徳の生活よりは、少ない給料の重労働を選んだ。彼女達はスズ鉱山、ゴム栽培地、建築現場で、そして女中 (amahs) として働いた。1950年代には彼女達は広く建築現場で雇われた。岩石を運び、穴を掘り、彼女達の小さな身体に不可能と思われる重労働に従事した。彼女達の赤い帽子 (red “hat”, red head dress) は彼女達のトレードマークとなった。赤い帽子は四角い血のような赤色の布で作られ、彼女達の頭上でかなり大きな長方形の屋根のようにみえるようにたたまれていた。髷か三つ編み (= pigtail, towchang : 未婚の印) に編まれた髪の毛は赤い帽子の下にたくしこまれた。彼女達は固く糊をつけた黒いサムフー (samfoo, samfu : 日本の作務衣) テュニックとズボンの上下にエプロンをつけていた。彼女達が履くサンダルは使用ずみのタイヤのゴムを切り取り、自分で留め紐をつけたものだった。

参考 : samsui woman infopedia.nl.sg/articles/SIP_795_2005-01-18.html (Naidu Ratnala Thulaja 著、1999.4.17執筆。National Library Board© 2004.)

[32] ここでは最初の数行のみ英文で示す。舞台での会話でもアクセントといい、間といい見事な日本語であった。

JP1: Do yatte torerunndayou.

JP2: Shiraneyo...

JP1: Chikisho

JP2: Tasketei!

JP2: Tasketei Kurei!

JP1: HELP! (下の help より強調により大声を示す)

JP2: Help!

JP3: Urusei! Shhh! I'm trying to sureep.

JP1 & 2: Sureep?

JP2: How can you sureep at a time like this?

JP1: Our parachutes are stuck in these trees and you are trying to sureep?

JP3: Rook, I don't care if we are stuck her forever. This is much better than kamikaze flying.

JP1 & JP2 gasp in outrage.

[33] *The Sound of Music* の “Maria” を完全に利用した歌。つまりこの点ではオペラで言われる借用。

[34] Lee Kuan Yew 李光耀 (1923年9月16日、旧暦8月6日ー) : シンガポールの初代首相、現顧問相。1959-1965年首相 (独立前)、1965-90年首相 (独立後)、1990-2004年前任相、2004年ー顧問相を務める。

初代首相就任以降、長期にわたり権威主義的政治体制、いわゆる「開発独裁」を体現し、独裁政権下ながらシンガポールの経済的繁栄を実現した。客家系華人の4世にあたる。曾祖父のボクブンは、1862年に清の広東省からイギリスの海峡植民地であったシンガポールに移民した。英語を話す家系に生まれたクアンユーは、幼くして英語教育を受け、英語名も授けられ、家族などは現在でも “Harry” と呼ぶ。柯玉芝とは1950年に結婚し、二男一女をもうけた。テロク・クラウ小学校、ラッフルズ学院を経て、ラッフルズ大学で学んでいたが、太平洋戦争の勃発に伴う1942年の日本軍によるシンガポール占領に伴い、学業を中断。大戦後の1945年にはイギリスに留学し、ケンブリッジ大学で法律学を専攻し、1949年に首席で卒業した後、帰国後は弁護士資格を取得。1954年11月21日に、“ビールを飲むブルジョア達” と指称した英語教育を受けた中産階級グループと共に人民行動党を創設した。党は、容共的な労働組合との政略的な連携を通じて創設されたものだが、この指導者となり首相となる。(Wikipedia 抄訳)

しかし、批評によると、この歌は単に李の言及、暗示だけでなく、現在の政府への手あたり次第のきつい論評との事 (Jeremyew.com/2007/07/09/)。あいにく、私にはその風刺が理解できなかったが。

[35] jeremyew.com/2007/07/09/

補遺

公演 Program から、抜粋転載する。

Dim Sum Dollie's 点心宝贝 Make History! Seek your fortune in Singapore!

Opportunities & success stories inside!

Dim Sum Dollies The History of Singapore.

Starring: Selena Tan, Pam Oei, Emma Yong, Hossan Leong

Esplanade Theatre 21st-28th February 2008.

Act I Prologues [Dim Sum Dollies]

Dim Sum Dollies The History of Singapore

Theme Song [Dim Sum Dollies]

Five Spices [Dim Sum Dollies & Chopstick]

Dirty Very Dirty Pirates [Company]

Be My Ang Moh [Dim Sum Dollies]

Sumsui Woman [Dim Sum Dollies]

Sin City [Company]

Act II

Kamikaze Pilots [Dim Sum Dollies]

Missionaries [Company]

The Kampung Blues [Dim Sum Dollies]

Luckily *[Dim Sum Dollies]

Singapore Girl (The History of Singapore version) [Company]

*additional lyrics by Pam Oei & Emma Yong

Books & Lyrics by Selina Tan

Music by Elaine Chan (Dim Sum Band)

Directed by Glen Goei

The Production List

The Company

Main Cast

Dim Sum Dolly.....Selena Tan

Dim Sum Dolly..... Pamela Oei

Dim Sum Dolly..... Emma Yong

Chopstick..... Hossan Leong

Loh Mai Guys

Gordon Choy, Miko Valenzuela, Oliver Pang, Zachary Goh, Fariz bin Sarib, Lee Jin Li

Dim Sum Band

Band Leader/ Piano & Keyboard..... Elaine Chan

Bass & Flute (Asian & Western) Colin Yong

Guitar Joshua Tan

Keyboards/Rehearsal Pianist..... Joel Nah
Drums & Percussion..... Vickneskunmar Veerappan
Special Harmonia Performance by Kelvin “Smokey” Ng
Booster Chorus
John Lee, Hong Pinming, Jason Wu
Creative Team
Director Glen Goei
Creator, Writer & Executive Producer Selina Tan
Composer, Arranger & Musical Director.....Elaine chan
Set Design..... Nicholas Li
Li Ka Yui, Yang Han, Lin Shuxian, & Tiw Pek Hong of Gosh design
Lighting Director Yo Shao Ann
Assistant Lighting Designer..... Maung Thu Yain Pye Aung
Sound Designer.....Shah Tahir
Costume Designers Moe Kasim & Frederick Lee
Hair Designer & Stylist Ashley Lim
Make Up Artists Robbie Ng & Low Jyue Jeuey
Production Team
Producer..... Shireehn Abdullah
Production Manager.....Denise Low
Technical Manager..... Teo Kunang Han
Stage Manager Grace Cha & Toh Lin
Wardrobe Mistress Engie Ho
Dressers..... Teresa Chan & Rachel Chua
Hair Assitant Pauline Tan
Administrative Team
Marketing, Publicity & Publications..... Shireen Abdulla
Production Administrators..... Chan Guat Hoon & Rosemary Tan
Designer (Collaterals & Communications).....Honey Milk
Front-of-House-Manager Tan Liting